

# 1 研究主題

## 児童生徒が自分の力を活かせる授業づくり（1年次／3年計画）

### 2 主題設定の理由

#### （1）児童生徒の実態から

本校は病弱に応じた教育を行う特別支援学校（小学部・中学部・高等部）であり、通常の学校に準ずる教育課程から自立活動を主とする教育課程までの児童生徒が在籍している。発達障がいや精神疾患のある児童生徒、医療的ケアを必要とする児童生徒の在籍が増加しており、障がいの重度・重複化により、実態は多種・多様化している。そのため、障がいによる学習上又は生活上の困難も「身の自立」「集団参加」「自己理解」など多岐にわたる。

生命を維持することが生活のベースになっている、様々な経験が不足している、興味・関心や社会的視野が狭い、人や社会とつながりたい気持ちはあるがどうつながって良いかわからない、といった児童生徒の実態や課題に応じて、学習内容や支援の方法を工夫し、学校教育活動全体を通して児童生徒一人一人の心身の調和的な発達を促すための授業を行うことが必要である。

本校では学習環境を整えて、個々の実態を踏まえた学習をすすめており、教師とじっくりかかわることで安心を得たり、児童生徒同士でかかわることの楽しさを感じたりしながら、主体的に学習に取り組み、学習内容の積み上げを図っている。一方で、児童生徒同士の関係の中では緊張感が強くなり、同じ場にいることにも不安を感じてしまう児童生徒、また、病状から生活の場が制限されている児童生徒も在籍している。

#### （2）教職員が指導上思うこと、困っていることから

学校研究の主題設定をするにあたって、指導上思うこと、困っていることをあげてもらった内容が以下の通りである。（抜粋）

- 自立活動の流れ図の作り方、実態把握の仕方、自立活動の流れ図を作る時間の確保
- 自立活動の目標の立て方、指導内容、指導・支援方法
- 合わせた指導、各教科等の視点での授業の在り方
- ICTを使った授業、授業づくり
- 指導と評価の一体化

児童生徒の実態が多岐にわたること、根拠に基づいた授業計画の仕方、授業づくり全般、働き方改革が進められていること、などについて、教職員が不安に思っていること、課題と感じていることが様々あることが明らかになった。

### (3) 学校教育目標、学校経営の重点から

本校の学校教育目標は、『「いのち」を大切に、「まなび」を楽しみ、「つながり」をつくる人を育てる』である。また、学校経営の重点には「一人一人の病気・病状や障がい等を正しく理解」「学習指導要領の確実な実施」「主体的で対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」「キャリア教育と進路指導の充実」が挙げられている。

児童生徒の実態、教職員が感じている課題、学校経営の重点から、学校教育目標の実現に向けてのキーワードは「授業づくり・授業改善」「個に応じた指導」「自立と社会参加」と捉えた。教職員が指導力を高め、児童生徒の課題に向き合い、授業実践を行うことで、学校教育目標にせまることができる考える。

## 3 研究のねらいと年次計画

本研究は、『児童生徒が自分の力を活かせる授業づくり』を主題とし、3年計画（表1）で、自立と社会参加ができる児童生徒を育てることをねらいとする。

1年次は『試行・土台作り』として学習指導要領に基づく目標設定の仕方をサブテーマに進めていく。2年次は『チャレンジ』とし、指導内容の設定の仕方、3年次は『定着』として指導と評価の一体化をサブテーマに進めていく。

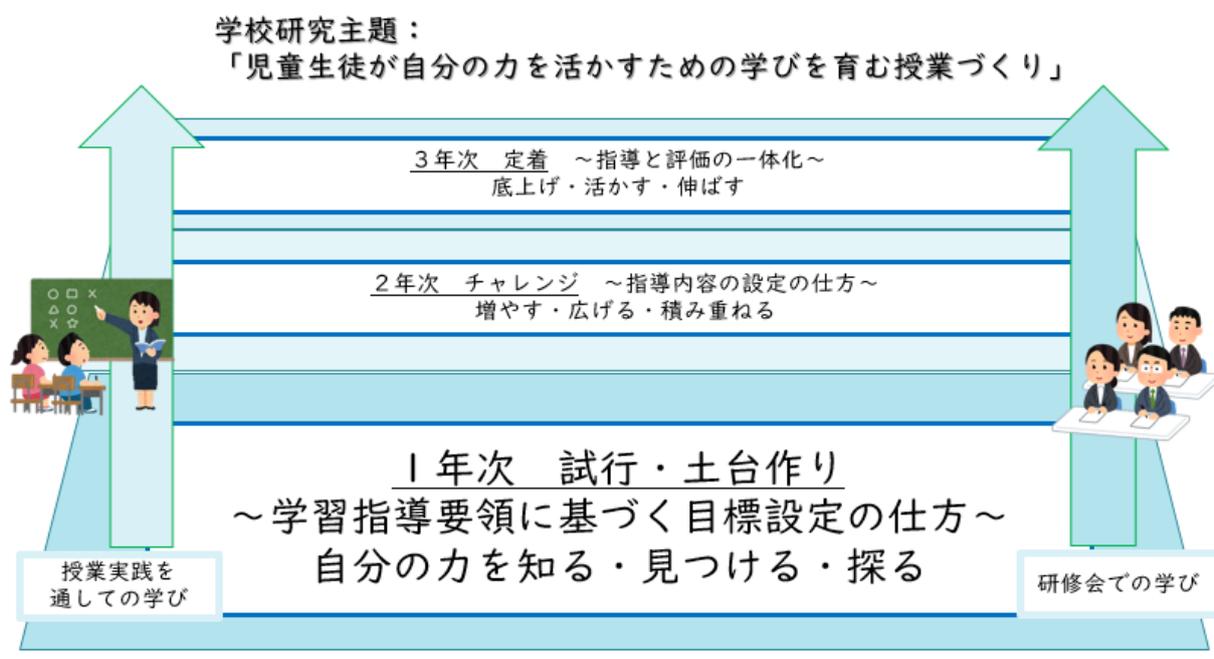
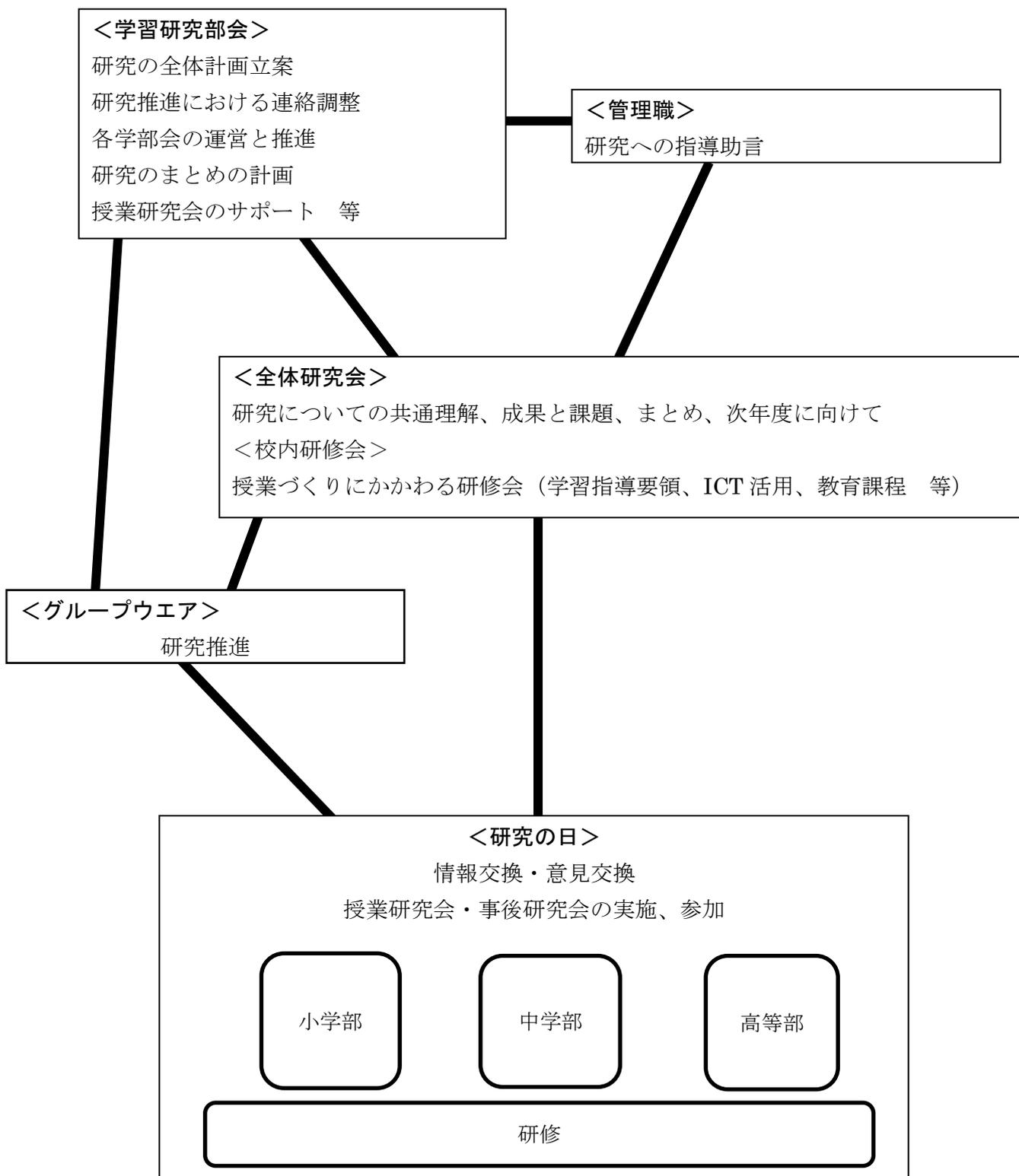


表1 本研究の年次計画

## 4 研究の組織



## 小学部 まとめ

### 【合同音楽の授業実践】

#### 1. 県教育センター指導主事と事前打ち合わせから

##### (1) 授業をどのようにデザインしていくか

音楽は沈黙も大事である。(他者の音を聞く) 7人の児童、個々の山場をどうとらえるか。

個々の目標を具体化 → 「達成できた」と評価できる基準をもつ。評価できる姿を明確にする。

授業の目標を1つに絞る → ゴールを授業の導入で児童に示す。

##### (2) 指導案作成・授業づくりについて

- ・全体目標、個別目標、評価基準について、学部全員で検討していく。
- ・T1は全体目標を設定、授業の流れを作り、活動をまとめていく。
- ・T2～T6 および担任は個別の目標・評価基準を指導案に明記し、個別の目標に迫ることができるよう支援にあたる。
- ・これを授業者同士で共有する。

#### 2. 学部の取り組みおよび事前研究会より

学校研究1年次:「学習指導要領に基づく目標設定の仕方」を受け以下の取り組みを行った。

##### (1) 授業づくり

①「目標・内容の一覧」を活用した実態把握

- ・実態幅が広いので、学習指導要領の「目標・内容の一覧」を使い実態把握を行う。
- ・「実態に該当する項目」を一覧に記載し、個々の実態と、学習集団の全体像を把握する。
- ・「目標の根拠とする項目」を明確にし、一覧に記載する。
- ・「実態」「目標の根拠」の記載された「目標・内容の一覧」を別紙添付という形で指導案に反映させる。



②目標設定

T1: 全体目標

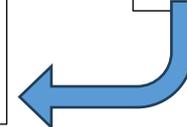
- ・「学習指導要領に基づく」という観点で、学習指導要領に明記されている「表現を楽しむ」「音楽表現を工夫する」など、文言そのままを取り入れ、幅を持たせて設定する。

T2～T6: 全体目標を基に個別目標を設定

- ・個別の目標を設定していくときに、具体的な姿での目標・評価としていく。

③授業づくり

- ・めあてカードの作成。
- ・ゴールの共有。
- ・個々の目標、「できた」を明確にする。



(2) 小学部の事前研については、①学部全職員での事前研、②T1と各学級から選出した代表教員で構成したチーム検討会の2つの会で取り組んできた。

事前研究会 6回 (8/25、9/11、9/25、10/22、11/6、11/20)

チーム検討会 5回 (10/2、10/14、10/16、10/17、10/27)

### 3、実践を通して

#### (1) 指導案作成について

○今年度の学校研究テーマ「学習指導要領に基づく目標設定の仕方」にせまるために、学習指導要領の「目標・内容の一覧」を活用して実態の把握・目標設定を行った。「目標・内容の一覧」を活用することで共通理解を図りやすく、学習集団の実態幅等もわかりやすくなった。

#### (2) 授業づくりについて

○T1が全体のめあてを提示し、「めあてカード」を毎時間使いながら、個々の「めあて」を確認し、活動後に振り返ることで、T1の話聞く姿勢が育った。

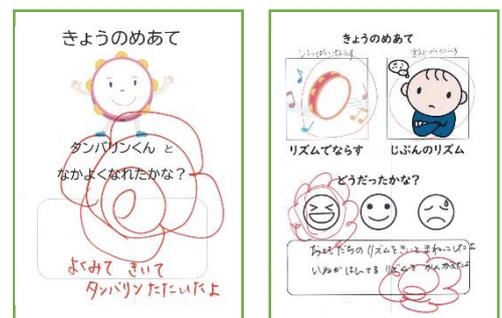


○めあてを児童と教師が共有することで、めあてが伝わっていると感じた。

○見通しをもって学習に取り組むことで、児童の表出や、表現方法を工夫しようとする姿が増え、個々の成長を感じることができた。

▲今回の「めあてカード」の形式では、めあての共有・振り返りが難しかった児童がいた。

▲どのように目標を伝えるか、どのように振り返るか、活動量や難易度はどのくらい可能なのか、実態に幅がある集団での学習の際は、検討が必要である。



### 4、事後研究会より

助言者：県教育センター 本間みゆき 指導主事

#### (1) 目標設定について

・今回の「目標・内容の一覧」を活用し、実態だけでなく、目標の根拠とするところも示してあり、良かった。

・全体目標と、個人目標の考え方は、今回の考え方で良い。

①全体目標：指導要領の文言を用いた抽象的な表現となっても可でもある。

②個別目標：具体的な表現で個別の目標、評価基準を設定する。

・目標の振り返り（自己評価、自己分析）→「自己効力感」「自信」につながっていく。

→「自己効力感」「自信」は自立と社会参加に必要な力

・目標の確認と振り返りを、これからも実施していく。

#### (2) 教科について

・児童が「音楽的な見方・考え方」を働かせている具体的な姿は？と、考えていく。

・音楽科であれば、音楽を形作っている要素（共通事項（1）ア）というものがあり、児童の発達の段階やねらいに応じて、適切に選択したり関連付けたりして指導することが求められている。

・児童が各教科の「見方・考え方」を働かせている具体的な姿を考え、目標設定・評価していく。

### 5、まとめ

○目標設定の仕方については、おおむね成果が見られた。

・児童と「目標の確認」と「振り返り」に取り組むにあたり、「何が」「どのように、どのくらい」できるようになったのか、児童自身に実感があるか、という視点で検討していく必要がある。

# 小学部重複障がい学級 音楽科 学習指導案

日 時：令和7年11月28日（金）  
 3校時（10：30～11：15）  
 場 所：第2自立活動室  
 授業者：T1 土屋侑佳 T2 逸見静佳  
 T3 佐竹真理子 T4 松田政子  
 T5 柴田静香 T6 田川玲子  
 T7 渋谷絵里 T8 田中純子

## 1 題材名 「楽器を鳴らそう」

## 2 目標

- 楽器の音やリズムに気付いたり、楽器を鳴らしたりすることができる。（知識及び技能）
- 楽器の音やリズムを聴いて、自分なりに表現を楽しんだり、音楽表現を工夫したりすることができる。（思考力、判断力、表現力等）
- 楽器やリズムに関心を向けたり、楽器の音やリズムの楽しさを感じて、自分なりに表現を楽しもうとしたりする。（学びに向かう力、人間性等）

特別支援学校学習指導要領解説 各教科編（小学部・中学部）  
 目標・内容の一覧〔音楽〕 各教科 P. 588、590. 592 別紙添付

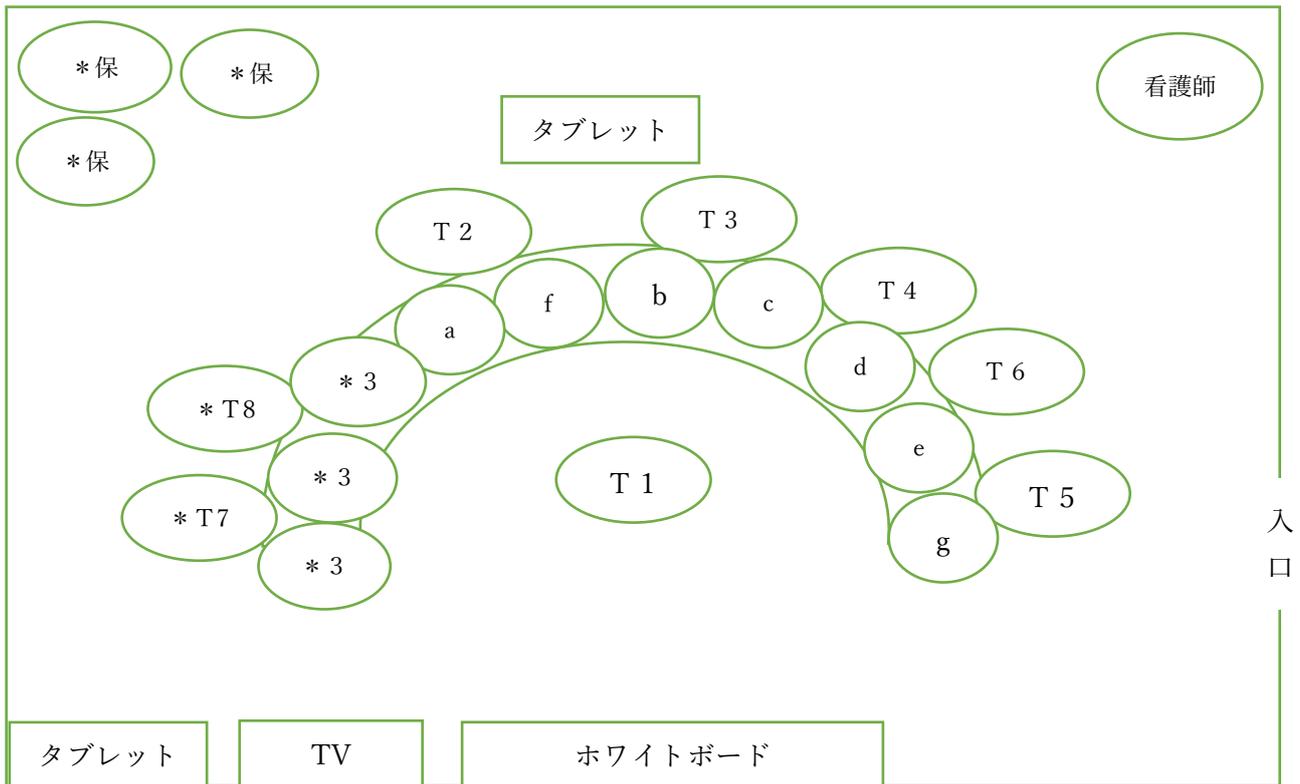
## 3 個別の目標

a	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 教師と一緒に鳴らす楽器の音に気付くことができる。</li> <li>② 楽器の音やリズムを聴き、視線を向けたり、感じたことを声で表したりすることができる。</li> <li>③ 友達や教師が鳴らす楽器の音やリズムを繰り返し聴き、声を出したり、楽器に手を伸ばそうとしたりする。</li> </ul>
b	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 楽器の音やリズムの違いに気付くとともに、楽器を鳴らすことができる。</li> <li>② 楽器の音やリズムを聴いて、楽器の鳴らし方を工夫することができる。</li> <li>③ 音の違いや、友達の表現の良いところを見付け、一緒に楽しもうとする。</li> </ul>
c	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 楽器やリズムに関心を向けて聴いたり、自分で楽器の音を出したりすることができる。</li> <li>② 楽器の音やリズムを感じて、楽器を鳴らしたり身体を動かしたりして表現することができる。</li> <li>③ 教師や友達が鳴らす楽器の音やリズムに親しみ、一緒に取り組もうとする。</li> </ul>
d	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 楽器の音やリズムに気付いたり、教師と一緒に楽器の音を出したりすることができる。</li> <li>② 楽器の音やリズムを感じて、身体を動かしたり音を出したりすることができる。</li> <li>③ 楽器や音に関心を向け、友達や教師と一緒に活動を楽しもうとする。</li> </ul>
e	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 楽器の音やリズムを感じて、身体を動かしたり、楽器を鳴らしたりすることができる。</li> <li>② 始まりと終わりを意識しながら聴き、楽器を鳴らしたり身体を動かしたりして表現することができる。</li> <li>③ 楽器の音やリズムの楽しさを感じ、友達や教師と一緒に活動しようとする。</li> </ul>
f	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 簡単なリズムに合わせて、楽器を鳴らすことができる。</li> <li>② 範奏を参考にしながらリズムや音の強弱を工夫して、自分なりに楽器を鳴らすことができる。</li> <li>③ 音の違いや、友達の表現の良いところ見つけ、一緒に楽しもうとする。</li> </ul>
g	<ul style="list-style-type: none"> <li>① リズムを意識して楽器を鳴らすことができる。</li> <li>② 楽器の音やリズムを聴いて、優しく音を出すなど音楽表現を工夫することができる。</li> <li>③ 楽器やリズムに関心を向けたり、教師や友達と一緒に活動に取り組もうとしたりする。</li> </ul>

4 指導計画（本時5／6時間）

	実施日	学習内容	評価の観点		
			知	思	主
1	10月31日（金）	(1) はじめのあいさつ	○		
2	11月7日（金）	(2) タンバリンでおへんじ	○		
3	11月14日（金）	(3) タンバリンをならそう	○	○	○
4	11月21日（金）	(4) まねっこせんせい	○	○	○
5 本時	11月28日（金）	(5) ふりかえり		○	
6	12月5日（金）	(6) おわりのあいさつ		○	○

場の設定



- ※ \* 3 : 3組（訪問教育）の児童
- ※ \* T 7, T 8 : 3組の児童を支援する教員
- ※ \* 保 : 3組の児童の保護者
- ※ 毎週金曜日が訪問学級の児童のスクーリング設定日となっており、登校した際には一緒に学習に取り組む。
- ※ 訪問教育の本時の指導案は、当日別紙配布。

5 本時について

(1) 全体の目標

○ 範奏やリズムを聴いて、自分なりに表現を楽しんだり、音楽表現を工夫したりすることができる。  
(思考力、判断力、表現力等)

(2) 児童の個別の実態と目標

	児童の実態（自分の力）	個別の目標	評価の観点		
			知	思	主
a	<ul style="list-style-type: none"> <li>好きな音楽が聞こえてくると視線を向けることができる。</li> <li>短い曲の歌を繰り返し聞くことで、楽しさを感じ、声をあげることがある。手に持つ楽器は、口に運んでしまう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教師と一緒に鳴らすタンバリンの音に気付いて、視線を向けたり声を出したりすることができる。</li> </ul>		○	
b	<ul style="list-style-type: none"> <li>歌や音楽を好み、音の変化や速さなどの違いを感じて楽しむことができる。</li> <li>動画教材や教師の範奏に注目し、リズム打ちの手の動きをまねしようとする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>タンバリンの音やリズムを聴き、音の強弱やリズムを考えて表現することができる。</li> </ul>		○	
c	<ul style="list-style-type: none"> <li>教師が近くでタンバリンをたたいて音を出してみせると、目を向けて聴く。</li> <li>範奏の後にタンバリンを差し出すと、手を伸ばす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>タンバリンを鳴らす教師や友達に目を向けて聴いたり、タンバリンを持ち好きなたたき方で鳴らしたりすることができる。</li> </ul>		○	
d	<ul style="list-style-type: none"> <li>動画教材に注目したり音のする方に視線を向けたりする。</li> <li>歌や音楽を好み、楽しい気持ちで身体を揺らすことがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>タンバリンの音を感じて体を動かしたり、教師と一緒に音を出したりすることができる。</li> </ul>		○	
e	<ul style="list-style-type: none"> <li>楽器を目の前に提示すると手を伸ばして取ろうとする。</li> <li>範奏を示すとタンバリンをたたいて音を出そうとする。</li> <li>教師の範奏が終わると手を振ったり拍手をしたりすることがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>友達や教師がタンバリンを鳴らす様子を見て、自分なりにリズムをとってタンバリンをたたくことができる。</li> </ul>		○	
f	<ul style="list-style-type: none"> <li>歌や踊りを好む。動画教材や教師の範奏などに注目し、動きやリズム打ちをまねすることができる。</li> <li>リズムや速さの変化に気付いてそれを楽しむことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教師や友達の鳴らす音やリズムを聴き、自分が表現したい音やリズムを考え表現することができる。</li> </ul>		○	
g	<ul style="list-style-type: none"> <li>歌や音楽を聴くことを好む。動画教材や教師の範奏などに注目し、動きをまねしようとすることがある。</li> <li>心理的に安定した状況であれば範奏のリズムを聴いて、音を出そうとする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>範奏やリズムを聴いて、優しく音を出そうとしたり、選んだカードに応じて音を出そうとしたりする。</li> </ul>		○	

(3) 学習活動の展開

時間	学習活動	主な支援 (○) 留意点 (・) 評価の観点 (☆)
導入 10分	<p>1 始めの挨拶をする。</p> <p>2 タンバリンで返事をする。 (1) タンバリンに触れて音を出したり、同じリズムで鳴らして応えたりする。 (2) 友達の音を聴いたり、様子を見たりする。</p>	<p>○T1 「今日も『タンバリンをならそう』の勉強をしようね！」</p> <p>○T1 「今日一緒にお勉強するお友達は誰かな。タンバリンを使ってお返事してみよう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「○○さん」(♪♪♪)で呼び掛ける。</li> <li>・T1がタンバリンを持って全員順番に回る。</li> <li>・T2～T6は、児童が取り組む様子を見守ったり、手を添えて一緒に楽器に触れたりする。</li> </ul>
展開 25分	<p>3 学習内容を知る。 (1) 今日のめあてを教師と確認する。</p> <p>4 タンバリンを鳴らす。 (1) 約束を確認する。  (2) 教師の範奏を見て、リズム打ちをする。</p> <p>5 「まねっこせんせい」となり、タンバリンを鳴らす。 (1) カードを選ぶ。 (2) 前に出て、タンバリンを鳴らしたりリズム打ちをしたりする。 (3) 友達がタンバリンを鳴らす映像を見て、まねしてタンバリンを鳴らす。</p>	<p>○「タンバリンくん、今日のめあてを教えてください？」</p> <p>タ『今日はみんな、まねっこせんせいをやってみようよ。みんなのリズムが聴きたいな。』</p> <p>○「めあてカード」を配付する。T2～T6は主に支援にあたる児童と学習の目標を確認する。</p> <p>○「だいに」「にこにこ」の2つのキーワードで、楽器を扱い方と学習の取り組み方について確認する。</p> <p>○タンバリンを配付する。</p> <p>○T1が絵カードを提示しながら、いろいろなリズムがあることを確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・T2～T6は、T1と同じリズムで児童と一緒にタンバリンを鳴らしたり、児童が自分でタンバリンを鳴らす様子を見守ったりする。</li> <li>・必要に応じて、リズムカードも活用する。</li> </ul> <p>タ『まねっこせんせい、やってみよう。』</p> <p>○T1は児童に「まねっこせんせい」になって前に出て、タンバリンを鳴らすことを伝える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「まねっこせんせい」になる児童が、「絵カード」「リズムカード」を自由に選択できるようにする。</li> <li>・前に出た児童がリズム打ちをする様子をタブレットで録画する。</li> <li>・教員は児童と一緒にタンバリンを鳴らしたり、児童が自分で鳴らす様子を見守ったりする。</li> </ul> <p>○「まねっこをしてみよう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・録画した映像をテレビで流し、児童が模倣できるように支援する。</li> </ul>

		<p>a○タンバリンを鳴らす活動に気持ちを向けることができるように、教師が手を取りながらタンバリンをたたいて活動に誘い掛ける。</p> <p>a☆教師と一緒に鳴らすタンバリンの音に気付いて、目の前のタンバリンに視線を向けたり、声を出したりすることができたか。</p> <p>b○安心して活動できるよう表情や様子から気持ちを推察したり言葉掛けをしたりする。</p> <p>b☆タンバリンの音やリズムを聴き、音の強弱やリズムを考えて表現することができたか。</p> <p>c○身振りとともに言葉掛けをする、イラストを提示するなどして誘い、児童なりの表現を称賛して、活動への関心と意欲がもてるようにする。</p> <p>c☆前に出てタンバリンを鳴らす教師や友達を見て聴くことができたか。</p> <p>c☆自分でタンバリンを持ち、好きなたたき方で鳴らすことができたか。</p> <p>d○活動に気持ちを向けられるように言葉掛けをしながら手に触れて誘い掛ける。</p> <p>d☆タンバリンの音を感じて体を動かしたり、教師と一緒に音を出したりすることができたか。</p> <p>e○友達や教師を見るように促す言葉掛けをしながら、手を取って一緒にタンバリンをたたくようにする。</p> <p>e☆友達や教師がタンバリンを鳴らす様子を見て、自分なりにリズムをとってタンバリンをたたくことができたか。</p> <p>f○友達や教師が鳴らすリズムの良さや特徴を伝え、自分で考えたリズムを発表できるように誘い掛ける。</p> <p>f☆強弱や速さなどをアレンジして表現することができたか。</p> <p>g○「優しく」「大事に」などの言葉を、手話を交えながら伝える。興奮している様子が見られる場合は、うれしい、楽しい、緊張などの心理状況が想定されるためそれらについて言葉でフィードバックしながら手を握ったり胸元に手を当てたりすることで興奮を落ち着かせるよう促す。</p> <p>g☆タンバリンを優しく扱いながら、選んだカードに応じて既定のリズムを意識したり、自分なりのリズムを考えたりして鳴らすことができたか。</p>
<p>まとめ 10分</p>	<p>6 学習を振り返る。 (1) 近くの教員とめあてカードを見ながら、学習を振り返る。</p> <p>7 終わりの挨拶をする。</p>	<p>○T1は全体に言葉掛けをし、T2～T6が児童の実態に合わせて、振り返りをする。</p> <p>・T2～T6は、主に支援にあたる児童と、「めあてカード」を活用しながら振り返りをする。</p> <p>○学習が終わりに近づいていることがわかるように、『星に願いを』のオルゴール ver をBGMに流す。</p>

表記例 (a) : a児の実態に該当する項目 【a】 : a児の本時の目標の根拠とする項目

教科の目標			
表現及び鑑賞の活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活の中の音や音楽に興味や関心をもって関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。			
知・技	(1) 曲名や曲想と音楽のつくりについて気付くとともに、感じたことを音楽表現するために必要な技能を身に付けるようにする。		
思・判・表	(2) 感じたことを表現することや、曲や演奏の楽しさを見いだしながら、音や音楽の楽しさを味わって聴くことができるようにする。		
学び	(3) 音や音楽に楽しく関わり、協働して音楽活動をする楽しさを感じるとともに、身の回りの様々な音楽に親しむ態度を養い、豊かな情操を培う。		
段階の目標	1 段階	2 段階	3 段階
知・技	ア音や音楽に注意を向けて気付くとともに、関心を向け、音楽表現を楽しむために必要な身体表現、器楽、歌唱、音楽づくりにつながる技能を身に付けるようにする。  (a) (c) (d) (e)	ア曲名や曲想と簡単な音楽のつくりについて気付くとともに、音楽表現を楽しむために必要な身体表現、器楽、歌唱、音楽づくりの技能を身に付けるようにする。  (b) (f) (g)	ア曲名や曲想と音楽のつくりについて気付くとともに、音楽表現を楽しむために必要な身体表現、器楽、歌唱、音楽づくりの技能を身に付けるようにする。
思・判・表	イ音楽的な表現を楽しむことや、音や音楽に気付きながら関心や興味をもって聴くことができるようにする。  (a) (c) (d) (e)	イ音楽表現を工夫することや、表現することを通じて、音や音楽に興味をもって聴くことができるようにする。  (b) (f) (g)	イ音楽表現に対する思いをもつことや、曲や演奏の楽しさを見いだしながら音楽を味わって聴くことができるようにする。
学び	ウ音や音楽に気付いて、教師と一緒に音楽活動をする楽しさを感じるとともに、音楽経験を生かして生活を楽しいものにしようとする態度を養う。  (a) (c) (d) (e)	ウ音や音楽に関わり、教師と一緒に音楽活動をする楽しさに興味をもちながら、音楽経験を生かして生活を明るく楽しいものにしようとする態度を養う。  (b) (f) (g)	ウ音や音楽に楽しく関わり、協働して音楽活動をする楽しさを感じながら、身の回りの様々な音楽に興味をもつとともに、音楽経験を生かして生活を明るく潤いのあるものにしようとする態度を養う。
内容	1 段階	2 段階	3 段階
A 表現	ア音楽遊びの活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	ア歌唱の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	ア歌唱の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
	(ア)音や音楽遊びについての知識や技能を得たり生かしたりしながら、音や音楽を聴いて、自分なりに表そうとすること。 (g) 【c】	(ア)歌唱表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、好きな歌ややさしい旋律の一部分を自分なりに歌いたいという思いをもつこと。	(ア)歌唱表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、歌唱表現に対する思いをもつこと。
	(イ) 表現する音や音楽に気付くこと。  (a) (c) (d) (e) 【a】 【d】	(イ)次の㉗及び㉘について気付くこと。 ㉗曲の特徴的なリズムと旋律 ㉘曲名や歌詞に使われている特徴的な言葉	(イ)次の㉗及び㉘について気付くこと。 ㉗曲の雰囲気と曲の速さや強弱との関わり ㉘曲名や歌詞に使われている言葉から受けるイメージと曲の雰囲気との関わり
(ウ)思いに合った表現をするために必要な次の㉗から㉙までの技能を身に付けること。 ㉗音や音楽を感じて体を動かす技能 (a) (c) (d) (e)	(ウ)思いに合った表現をするために必要な次の㉗から㉙までの技能を身に付けること。 ㉗範唱を聴いて、曲の一部分を模唱する技能 ㉘自分の歌声に注意を向けて歌う技能	(ウ)思いに合った歌い方で歌うために必要な次の㉗から㉙までの技能を身に付けること。 ㉗範唱を聴いて歌ったり、歌詞やリズムを意識して歌ったりする技能	

①音や音楽を感じて楽器の音を出す技能 (d) (e) (g) 【c】【e】 ⑦音や音楽を感じて声を出す技能	⑦教師や友達と一緒に歌う技能	①自分の歌声の大きさや発音などに気を付けて歌う技能 ⑦教師や友達と一緒に声を合わせて歌う技能
---	----------------	---

内容	1段階	2段階	3段階
A 表現		イ楽器の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	イ楽器の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
		(ア)楽器表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、身近な打楽器などに親しみ音を出そうとする思いをもつこと。(f)	(ア)楽器表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、楽器表現に対する思いをもつこと。【f】
		(イ)次の⑦及び⑧について気付くこと。 ⑦拍や曲の特徴的なリズム (b) (f) (g) ⑧楽器の音色の違い (b) (f)	(イ)次の⑦及び⑧について気付くこと。 ⑦リズム、速度や強弱の違い (f) ⑧演奏の仕方による楽器の音色の違い
		(ウ)思いに合った表現をするために必要な次の⑦から⑨までの技能を身に付けること。 ⑦節奏を聴き、模倣をして演奏する技能 (f) 【g】 ⑧身近な打楽器を演奏する技能 (b) (f) 【b】 ⑨教師や友達と一緒に演奏する技能 (f) 【g】	(ウ)思いに合った表現をするために必要な次の⑦から⑨までの技能を身に付けること。 ⑦簡単な楽譜などを見てリズム演奏などをする技能 ⑧身近な打楽器や旋律楽器を使って演奏する技能 ⑨教師や友達の楽器の音を聴いて演奏する技能 【f】
		ウ音楽づくりの活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	ウ音楽づくりの活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
		(ア)音楽づくりについての知識や技能を得たり生かしたりしながら、次の⑦及び⑧をできるようにすること。 ⑦遊びを通して、音の面白さに気付くこと。 ⑧音や音楽で表現することについて思いをもつこと。	(ア)音楽づくりについての知識や技能を得たり生かしたりしながら、次の⑦及び⑧をできるようにすること。 ⑦音遊びを通して、音の面白さに気付いたり、音楽づくりの発想を得たりすること。 ⑧どのように音を音楽にしていくなかについて思いをもつこと。
		(イ)次の⑦及び⑧について、それらが生み出す面白さなどに触れて気付くこと。 ⑦声や身の回りの様々な音の特徴 ⑧音のつなげ方の特徴	(イ)次の⑦及び⑧について、それらが生み出す面白さなどと関わって気付くこと。 ⑦声や身の回りの様々な音の特徴 ⑧簡単なリズム・パターンの特徴
		(ウ)気付きを生かした表現や思いに合った表現をするために必要な次の⑦及び⑧の技能を身に付けること。 ⑦音を選んだりつなげたりして、表現する技能 ⑧教師や友達と一緒に簡単な音や音楽をつくる技能	(ウ)気付きや発想を生かした表現や、思いに合った表現をするために必要な次の⑦及び⑧の技能を身に付けること。 ⑦音を選んだりつなげたりして表現する技能 ⑧教師や友達と一緒に音楽の仕組みを用いて、簡単な音楽をつくる技能

内容	1段階	2段階	3段階
A 表現		エ身体表現の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	イ身体表現の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
		(ア) 身体表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、簡単なリズムの特徴を感じ取り、体を動かすことについて思いをもつこと。	(ア)身体表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、簡単なリズムや旋律の特徴、歌詞を感じ取り、体を動かすことについて思いをもつこと。
		(イ) 次の㉞及び㉟について気付くこと。 ㉞拍や曲の特徴的なリズム ㉟曲名と動きとの関わり	(イ) 次の㉞及び㉟の関わりについて気付くこと。 ㉞曲のリズム、速度、旋律 ㉟曲名、拍やリズムを表す言葉やかけ声、歌詞の一部
		(ウ) 思いに合った動きで表現するために必要な次の㉞から㉟までの技能を身に付けること。 ㉞示範を見て模倣したり、拍や特徴的なリズムを意識したりして手足や身体全体を動かす技能 ㉟音や音楽を聴いて、手足や身体全体を自然に動かす技 ㊱教師や友達と一緒に体を動かす技能	(ウ) 思いに合った体の動きで表現するために必要な次の㉞から㉟までの技能を身に付けること。 ㉞示範を見たり、拍やリズム、旋律を意識したりして、身体表現をする技能 ㉟音や音楽を聴いて、様々な体の動きで表現する技能 ㊱教師や友達と一緒に体を使って表現する技能
B 鑑賞	ア音楽遊びの活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	ア鑑賞の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	ア鑑賞の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
	(ア) 音や音楽遊びについての知識や技能を得たり生かしたりしながら、音や音楽を聴いて、自分なりの楽しさを見付けようとする事。 (e)	(ア)鑑賞についての知識を得たり生かしたりしながら、身近な人の演奏を見たり、体の動きで表したりしながら聴くこと。 (f) (g)	(ア)鑑賞についての知識を得たり生かしたりしながら、曲や演奏の楽しさを見いだして聴くこと。
	(イ) 聴こえてくる音や音楽に気付くこと。 (a) (c) (d) (e)	(イ)身近な人の演奏に触れて、好きな音色や楽器の音を見付けること。 (b) (f) (g)	(イ)曲想や楽器の音色、リズムや速度、旋律の特徴に気付くこと。
共通事項	(イ) 「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。		
	ア音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じとったこととの関わりについて考えること。		
	イ絵譜や色を用いた音符、休符、記号や用語について、音楽における働きと関わらせて、その意味に触れること。		

中学部 まとめ

8/25	<p>情報共有（グループ協議） 「単元目標の設定に向けて」 生徒の実態について、学びの履歴、自立活動の流れ図を基に把握し、学習指導要領で内容のまとまりを確認しながら、目標の検討、設定を行った。</p>
9/11	<p>情報共有（グループ協議） 「本時の個別目標と単元にかかわる生徒の実態について」 「学習活動の評価の観点を整理する」 ○評価の観点について、具体的な生徒の姿をイメージし、誰でも同じ基準で評価できるようにしていく必要があった。</p>
9/25	<p>事前研究会 「各教科で学習をすると困ることについて～なぜ合わせた指導を行うのか～」 ＜話し合いで挙げられた内容＞ ・個別の特性への配慮が難しい、抽象的な学習が難しい。 ・学習評価が難しい。 ・学習同士の系統、つながりが難しい。 ・教科横断的な学習が難しい。 ・学習が断片的だ。 ・繰り返すことで身に付くことが多い。 ・ねらいにずれが出てしまい難しい。 ・活動のねらいを定め、子どもの実態に沿って進めていくのが良い。（生単のよさ） ・修学旅行の学習として、社会科として取り組むのは無理がある。</p> <p>情報共有（グループ協議） 「本時の目標を達成する生徒の具体的な姿」 「目標達成するための支援について」 ○目標を達成している生徒の具体的な姿をイメージして、目標を達成するために必要な支援は何かを話し合いを行った。</p>
10/3	<p>授業研究会 重複障がい学級・訪問教育 生活単元学習「修学旅行に行こう」 事後研究会 ○県教育センター指導主事との事前の打ち合わせから ・事後研の進め方について（鑑水指導主事からの提案） ※「目標に迫っていたと思う子供の姿」、参観しての「気づき」 「参考になったこと」「学んだこと」などを話し合う時間にしてはどうか。 →提案を受けて視点を2つに絞り、参観シートを作成した。 ①「目標を達成できていたか。その根拠となる子供の姿。目標を達成していなくても、近づいていたか、そう思う子供の姿。 ②参考になったこと、いいなと思ったことを踏まえて、自分が授業者であれば、やってみたいこと、次にする単元の授業づくりの中で取り入れたいこと、チャレンジしたいこと。</p> <p>(1)「短く、ポジティブに」を合言葉に、ブレインストーミングで意見交換を行った。 視点1「目標を達成できていたか」 →「あ、さて」のタイミングがばっちりだった。目標達成できていた。 視点2「参考になったこと、いいなと思った」 →教師の自己開示ができています。音声言語以外の準備が素晴らしい。 教材教具が多くて生徒も楽しそうに学習していた。</p> 

	<p>(2)「なぜ教科を合わせるのか」  →教科でしか身に付かないことは何か。  ・生単での教科の取り扱い、各教科を効果的に学ぶために行う。  学習を始める前に、取り扱う教科やねらいについて伝えると良い(合意形成)。この時間のゴール、できるようにになりたいことを伝える。振り返りでは、「楽しかった?」ではなく、ゴール(目標)をどれくらい達成できたかを自己評価させると良い。→自己効力感の向上になる。  →50分でいくつの目標をねらえるのか。  ・各教科の目標となると、最低2個になる。場合によって、各教科で行うこともある。</p> <p>(4)「ASDの確認」  ・エピソード記憶は共有しにくい(静止画の世界)。  肯定文で伝えると良い。「走らないで」は走るイメージが強くなる。  ねじれの言葉・・・音声と気持ちが伴わないことがある。  「わからない」→「先生助けて」などがある。  ことばを蓄えて、感情の爆発を減らしていく。本人と他者、本人と物などの2項関係から本人と他者の間に物を介した3項関係へしていく。(不安の共有)</p> <p>(5)「LDへの対応」  ・眼鏡を使うように、タブレット端末を使うと良い。(音声入力など)</p> <p>(6)その他  ・学び方も働き方の転換ということで、「子供も教師も【わくわく】する授業」を大事にしている。</p>
10/22	<p>10/3の事後研究会を受けて、  「今年度の生活単元学習で取り組んでいる内容の整理」  【視点】  ・配列のバランス、教科の偏りはどうか。 ・教科等を合わせて行うのが有効か。  ・各教科で取り組む学習内容との関連、重複はないか。  (教科として学習した方がよいところはないか、など)  ・R8年度に向けた改善点について</p> <p>【話し合いの結果】  ・道徳は合わせて学ぶのが有効ではないか。 ・社会と美術が多い。(重複)  ・美術(体験的な活動)がベースになっている。 ・1学期の社会が少ない。(重複)  ・事業所見学や陶芸教室の目標について、総合の指導要領のどの部分からきているのか、再度確認すると良い。  ・2学期以降の理科が少ない。 ・生活科の内容も含んでいる。</p>
11/6	<p>Co-MaMeの使い方(講義・演習) ※3~4人のグループに分けて演習を実施。  アセスメントシート→支援のイメージ図→整理シートの作成。</p>
11/20	<p>Co-MaMeの使い方(演習) ※3~4人ぐらいのグループに分けて演習を実施。  生徒A、B、C、Dについて、前回(11/6)の資料を使った指導・支援の共通理解について</p>
1/8	<p>中学部のまとめ</p>

中学部 重複障がい学級 訪問教育 第2・3学年 生活単元学習 学習指導案

日時：令和7年10月3日（金）3校時

場所：中学部2組2 教室

授業者：T1 日比野久枝 T2 新関日春望

T3 国井千珠子 T4 金子和子

T5 相沢駿斗

1 単元名「修学旅行に行こう」

2 目標 友達や教師と一緒に体験活動に取り組み、修学旅行を成功させることができる。

特別支援学校学習指導要領 各教科編

「知識技能」

社会・国語 中学部1段階(a, b, c)

国語 小学部1段階・生活科2段階(d)

特別活動 小学校(a, b, c, d)

「思考力、判断力、表現力等」

社会・国語 中学部1段階(a, b, c) 生活科 2段階(d)

特別活動 小学校(a, b, c, d)

「学びに向かう力、人間性」

特別活動 小学校(a, b, c, d)

内容

社会【1段階】(a, b, c)

イ 公共施設と制度

(ア) 公共施設の役割に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

㊦ 身近な公共施設や公共物の役割が分かること。

㊧ 公共施設や公共物について調べ、それらの役割を考え、表現すること。

生活【2段階】(d)

コ 社会の仕組みと公共施設

(ア) 教師の援助を求めながら身近な社会の仕組みや公共施設に気付き、それらを表現しようとする事。

(イ) 身近な社会の仕組みや公共施設の使い方などを知ること。

国語【中学部1段階】(a, b, c)

C 読むこと 読むことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 簡単な文や文章を読み、情景や場面の様子、登場人物の心情などを想像すること。

イ 語や語句の意味を基に時間的な順序や事柄の順序など内容の大体を捉えること。

ウ 日常生活に必要な語句や文章などを読み、行動すること。

国語【小学部1段階】(d)

A 聞くこと・話すこと

イ 身近な人からの話し掛けに注目したり、応じて答えたりすること。

小学校特別活動【学級活動】

(2) 日常生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全

イ よりよい人間関係の形成

学級や学校の生活において互いのよさを見付け、違いを尊重し合い、仲よくしたり信頼し合ったりして生活すること。

3 個別の単元目標

	個別の単元目標
a	・公共施設や宿泊先での体験活動を通して、友達や教師と一緒に活動することができる。
b	・公共施設や宿泊先での体験活動を通して、友達や教師と一緒に活動することができる。
c	・公共施設や宿泊先での体験活動を通して、友達や教師と一緒に活動することができる。
d	・体験活動を通して、注目したり表情を変えたりすることができる。

#### 4 単元にかかわる生徒の実態

生徒 abc は、今年度の校外学習や小学校の時の修学旅行といった集団活動に、最初から最後まで取り組むことができている。知らないことや慣れないことに対し、不安や緊張を感じる生徒たちだが、事前にイメージをもったり、取り組むことについて繰り返し確認を行ったりすることで、初めての活動にも前向きに取り組むことができる。本時の題材である「南京玉すだれ」については、全員が見聞きしたことがないと予想されるが、事前にはふれずに、本時の中で問いかける。

生徒 d は、病状から、修学旅行に参加するのは初めてである。体調に応じて、学習中でも口や気切部からの吸引を行う必要がある。てんかん発作が度々あり、日常生活は全介助、定期的な入院や訪問介護等、医療機関と連携しながら学校生活を送っている。授業は、訪問教育を週に1～2回、スクーリングは隔週金曜日に1時間程度、また、行事等の際に設定している。体調が安定していると眠ることが多いが、学習中であることを認識できると、教師からの働き掛けに応じようと、自発的な動きで取り組もうとする姿がある。コミュニケーションは、表情や瞬き、視線、身体の動き等で行っている。身体の可動域に合わせて教材を工夫したり、本人にとって心地よい刺激を入れたりすると、学習意欲を引き出すことができる。気持ちや体調の表出については以下にまとめた。

- ・快や許可：口元の緩み 鼻の下を伸ばす 口を開ける タイミングを合わせた瞬きや手指の動き
- ・不調や拒否：息を詰める ぼんやりする 舌を尖らせる 口元を固くしてすぼめる 硬い表情 泣く
- ・発作：眼震 ピクつき ガクっとなる 不随意な連続した動き 意識が遠くなっているような表情
- ・心拍数：覚醒時115前後 入眠時100前後 睡眠時80～90前後 緊張や苦しい120以上
- ・目の動き：眼球を動かす 対象を見つめる 涙目になる 瞼を固く閉じる 薄目を開ける 等
- ・身体の動き：指先が動く 右腕が上がる 左足が上がる 全身が脱力する 等

#### 5 単元について

修学旅行では、ハンバーガー作り、万華鏡作りといった体験活動や、うみの杜水族館、南京玉すだれを見学する活動を計画しており、それに向けた事前学習や事後学習を重複障がい学級の3名が取り組んで行く中で、訪問教育の1名も一部参加する構成になっている。

日程に準じて、体験活動や見学するものについて、実際に作ってみたいタブレットを使って見学先の情報を調べたりしていく。

修学旅行の2日目に、訪問教育の生徒が一部参加する南京玉すだれは、日本の大道芸の一つである。次々にすだれの形を変化させ、見る人を飽きさせない「見立て芸」は、古くから今日に至るまで、晴れの場で親しまれてきた。生徒にとって馴染みのない芸能であるからこそ、修学旅行が特別なものとして記憶に残り、且つ、普段の生活との関連性に気付いたり、不慣れな活動でも友達や教師と一緒に楽しむことを実際的に経験したりすることで、総合的な学びに繋がる活動であると考えられる。

#### 6 指導について

学習の最初に、本時の流れについて簡潔に説明することで、見通しをもち、安心できるようにする。生徒が思考しやすいよう、教材は写真やイラスト、具体物等を活用する。精神的に不安感が強い生徒が、気楽な気持ちで活動に取り組めるよう、教師が失敗してみせたり、すだれが偶発的に伸びたりと、ハプニング要素をもたせる。また、音に合わせて体を動かす活動を取り入れ、楽しい雰囲気作りをする。クイズについては、クローズドクエスチョンにすることで、生徒が自信を持って応じられるようにする。問いかけやクイズに答えることで、称賛される機会を複数回設け、生徒の自己肯定感を高められるようにする。また、学んだことを修学旅行当日に活かせるよう、具体的に振り返りを行う。

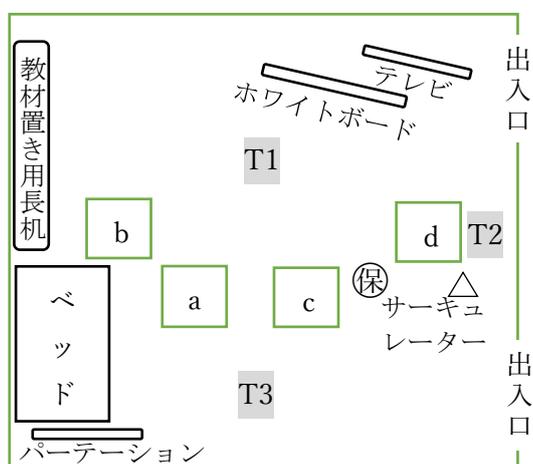
小集団での学びの良さを最大限引き出すために、座席を半円状に配置し、お互いの顔や動作を見ながらやり取りし、生徒同士が円滑にかかわれるようにする。音声言語での表現が難しい生徒には、○×や選択肢を表記したカードを選ぶことで自分の考えを伝えられるようにする。更に、生徒から出た表情や音声を教師が代弁することで、全員の理解を深めたり、互いの良さに気付いたりできるように仲介する。この単元においては、学習内容に応じて、T1～T5がMTを担当する。

本時の指導において、T2とT3は、T1の言葉をかみ砕いて繰り返し伝えたり、クイズのヒントを出したりしながら支援にあたる。当日休憩している可能性が高いcの学習保障としては、気持ちが向いたら授業に参加できるよう、教室と休憩室をGoogleMeetで繋いでおく。授業の途中からでも休憩できることについても、予め本人と確認しておく。

	実施日	学習内容（2組）	評価の観点		
			知	思	主
1	9月17日（水）	・オリエンテーション（1組と合同） *T2	○		
2	9月18日（木）	・行程の確認をしよう① *T2	○		
3	9月19日（金）	・行程の確認をしよう② *T2	○		
4	9月22日（月）	・行程の確認をしよう③ *T2	○		
5	9月24日（水）	・係決めをしよう（1組と合同） ・公共の施設の使い方、ルールの確認をしよう① *T5	○		
6	9月26日（金）	・公共の施設の使い方、ルールの確認をしよう② *T5		○	
7	9月29日（月）	・行程の確認をしよう④（1日目） ハンバーガー作り うみの杜水族館 *T2	○		
8	10月2日（木）	・行程の確認をしよう⑤（2日目） 万華鏡美術館 南京玉すだれ *T1	○		
<b>9 本時</b>	<b>10月3日（金）</b>	<b>・南京玉すだれを楽しもう！ （3組と合同） *T1</b>	○	○	
10	10月6日（月）	・行程の確認をしよう⑥ *T2		○	
11	10月7日（火）	・行程の確認をしよう⑦ *T2		○	○
12	10月8日（水）	・荷物確認をしよう *T4			○
13	10月9日（木）	・お土産を買う練習をしよう① *T3	○		
14	10月10日（金）	・お土産を買う練習をしよう② *T2		○	○
15	10月14日（火）	・最後の確認をしよう *T2			○
16	10月15日（水）	・しおり読み合わせをしよう *T2			○
17	10月20日（月）	・振り返りをしよう *T5		○	

## 7 指導計画（本時9／17時間）

### ※場の設定



### 準備する教材

- 学習の流れ短冊
- 目印マグネット
- スケッチブック
- すだれ4つ
- 海苔巻
- タブレット
- 掛け声ボード
- ペープサート
- 地球儀
- ギロ
- 5分砂時計
- ×札
- ×ブザー
- しおり
- まとめプリント
- シール
- ステップバイステップ

8 本時について

T1の視点

(1) 全体の目標

南京玉すだれを通して、自分の考えを表したり、友達と一緒に楽しんだりすることができる。

(2) 対象生徒の個別の実態と目標

	本時にかかわる実態	個別の目標	評価の観点		
			知	思	主
a	<ul style="list-style-type: none"> <li>音楽に合わせて体を動かすことが好き。</li> <li>選択肢の中から自分の考えを指さしで伝えることができる。</li> <li>友達の様子に目を向けたり真似をしたりすることができる。</li> <li>自分の気持ちや考えを表情や身体の動きで表現することができる。</li> <li>学習に50分続けて参加することができる。</li> </ul>	体を動かして南京玉すだれの音を楽しんだり、質問やクイズを通して選択肢の中から自分の考えを指さしや挙手で選び、相手に伝えたりすることができる。		○	
b	<ul style="list-style-type: none"> <li>修学旅行に対して不安感がある。</li> <li>自分が感じたことを言葉にすることに抵抗がある。</li> <li>aさんとの活動は安心して取り組むことができる。</li> <li>cさんの言動が気になり、落ち着かなくなることがある。</li> <li>興味のある学習には50分続けて参加することができる。</li> <li>疲れや眠気があると休憩をとることが多い。</li> <li>伝統文化に関する知識や興味は薄い。</li> </ul>	南京玉すだれについて知り、クイズを通して自分の考えを相手に伝えたり、学習を振り返る中で修学旅行を楽しむことができる。	○	○	
c	<ul style="list-style-type: none"> <li>好奇心やユーモアがある。</li> <li>興味関心の幅が狭い。</li> <li>自分が感じたことをストレートに言葉にすることができる。</li> <li>友達や教師との適切な距離感を保つことが難しい。</li> <li>午前中は眠気が強く別室で休んでいることが多い。</li> <li>伝統文化に関する知識や興味は薄い。</li> </ul>	南京玉すだれについて知り、教師からの質問に答えたり、自分が感じたことや分かったことを、相手に伝えたりすることができる。	○	○	
d	<ul style="list-style-type: none"> <li>音を学習の中で合図やBGMとして活用している。</li> <li>苦手な音（金属音や子供の歓声等）や好きな音（流水音やオルゴール等）がある。</li> <li>自分の気持ちを、表情や身体の動きで表すことができる。</li> <li>集団での学習に慣れていない。</li> <li>訪問教育では、75分の授業に本人なりに取り組むことができている。</li> </ul>	自分に向けて鳴っている音に気付き、関心を示したり、気持ちを表そうとしたりする。		○	

(2) 学習活動の展開 ※本時はT1が主に学習を進め、T2、T3が支援にあたる。

時間	学習活動	主な支援 (○) 留意点 (・) 評価の観点 (☆)
導入 5分	1はじめのあいさつをする。 (1)しおりを見て、前時を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>2組の当番に挨拶を依頼する。</li> <li>○しおりの行程表を読み上げて思い出せるようにする。</li> <li>・南京玉すだれにdさんが参加することを伝える。</li> <li>○T2はdさんに注目されていることを伝える。</li> </ul>
	2学習の見通しをもつ (1)質問に答える	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ホワイトボードにタイトルと流れを示しておく。</li> <li>○玉すだれについて質問し、各自のレディネスをはかる。</li> </ul>

<p>展開前半 20分</p>	<p>(2)学習の流れを知る。</p> <p>3 「なまえ」について考えたり答えたりする。</p> <p>(1)南京玉すだれの名称について考えたり説明を聞いたりする。</p> <p>(2)地球儀の南京を見る。</p> <p>(3)様々なすだれをさわる。</p> <p>(4)質問に答える。 「どちらのすだれが、南京玉すだれでしょうか。」</p> <p>(5)動画を見る。</p> <p>4 「リズム」について感じたり表現したりする。</p> <p>(1)教師の演技を見る。</p> <p>(2)T3の真似をして手拍子を打ったり声を出したりする。</p> <p>(3)T1の演舞を見ながら、リズムにのって掛け声をかけたり手拍子を打ったりする。</p> <p>5 「かたち」について考えたり答えたりする。</p> <p>(1)ペープサートを見て自分の考えを伝える。</p> <p>(2)形→物のペープサートを対応させる。</p> <p>(3)物→形のペープサートを対応させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実際に演舞を見たことがある、言葉だけを知っている、知らないの3択から選べるようにする。</li> <li>○項目をひとつずつ読み上げる。</li> <li>・項目の文字は1組が担当したことを伝え、一緒に行くメンバーを思い出せるようにする。</li> <li>・学ぶこととして、①なまえ②リズム③かたち の3つであること。休憩を挟み、クイズをしたら終わりであることを示し、学習内容が負担に感じないように伝える。</li> <li>○「なまえ」の項目の前に目印になるマグネットを貼る。</li> <li>○dに注目するよう促し、dさんの名前を質問する。</li> <li>・生徒からの答えを受け、ホワイトボードの右半分に「○○(下の名前)」を書き、賞賛してから、空欄になっている左側を指し「苗字は知っていますか？」と質問する。</li> <li>○スケッチブックに書かれた「南京 玉 すだれ」を示し、この名称は3つに分けられることを伝え、どこで切ることができそうか、隙間や色に注目させながら質問する。</li> <li>○名称の由来について、視覚支援を入れながら説明する。</li> <li>・動かしやすいスケッチブックや地球儀、具体物を用い、近くで見られるようにする。</li> <li>○全員で触れるよう様々なすだれを4つ用意する。</li> <li>・南京玉すだれの特徴的な動きが自然と起きるよう、仕組みについては触れない。</li> <li>○海苔巻を置いた料理用のすだれと、伸びた状態の南京玉すだれを提示し、どちらが南京玉すだれか質問する。</li> <li>・集中力を妨げないように、質問後すだれは一旦しまう。</li> <li>☆教師の質問に言葉や発声、身振り等で応えたか。知abc</li> <li>○②の項目に目印マグネットを移動して読み上げ、次に進んだことが分かるようにする。</li> <li>・T3は、テレビで動画を再生する準備をする。</li> <li>○集中を保てるよう1分程度の短い動画をテレビに映す。</li> <li>・掛け声や形について注目して見るよう、前置きする。</li> <li>・T2は、リズムに合わせてdの右腕に刺激を入れる。</li> <li>○掛け声や形、リズムについて質問し、再現する。</li> <li>○T3が掛け声を担当する。</li> <li>・T3は、「アさて」と書かれたボードを首から下げ、手拍子を大きく打ちながら掛け声をかけ、模倣を促す。</li> <li>○T1演舞1回目は「釣り竿」の技を決め、2回目の技の「魚」は失敗することで難しさを伝える。</li> <li>・生徒の手拍子や掛け声に力を貰ったことを伝える。</li> <li>○本番も相手に伝わるようにと、練習を促す。</li> <li>○T1が「魚」に挑戦し、成功させ、みんなのおかげだと感謝を伝える。</li> <li>☆リズムにのって手拍子を打ったか。思a</li> <li>☆音を聴いている様子があるか。思d</li> <li>○③の項目に目印マグネットを移動して読み上げ、次に進んだことが分かるようにする。</li> <li>○形をじっくり見て考えられるよう、ペープサート(魚、釣り竿、国旗、東京タワー)で技を解説する。※名称も文字で示す。</li> <li>・形に対応する物を重ねて、すだれが魚の形を模していることに気付けるようにする。</li> <li>・対応するペープサートについて、全員に確認する。</li> <li>・ペープサートが見やすくなるよう、下地を濃い色にする。</li> </ul>
---------------------	--	---

		<p>○全員が理解したことを認めて賞賛する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・休憩後はクイズコーナーであることを確認する。</li> </ul> <p>☆形と物が対応していることに気付いたか。思 abc</p>
休憩 5分	<p>6 水分補給 バイタルチェック 吸引等適宜 (d 母)</p>	<p>○水分補給を促す。</p> <p>5分砂時計設置／クイズ準備 (T 1) 保護者に一時的に離れることを断ってから換気 (T 2) テレビを廊下に出し、教室前方のスペースを広げる (T 3)</p>
展開後半 15分	<p>7 ○×クイズに答える。</p> <p>Q1. これ (実物) は、南京玉すだれである。○</p> <p>Q2. この形 (東京タワー) は、魚を表している。×</p> <p>Q3. ひとりずつ答える。</p> <p>a : T 1 「これは南京玉すだれの掛け声である。」 T 3 「花笠の掛け声」×</p> <p>b : T 1 「これは、南京玉すだれの音である。」 T 3 ギロを鳴らす。×</p> <p>c : T 1 「これは、南京玉すだれの掛け声である。」 T 3 「アさてアさて」○</p> <p>d : T 1 「これは、南京玉すだれの音である。」 T 3 「南京玉すだれ」○</p>	<p>○クイズの項目に目印のマグネットを移し、授業の再開を伝える。</p> <p>○丸バツの札を渡し、札を使って答えるよう伝える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ここまでの学習の中から、3問出題することを伝える。</li> <li>・全員でクイズに挑戦し、正解を喜び合えるようにする。</li> <li>・自信がありそうな生徒に、なぜそう思ったか質問したり、正答を促したりする。</li> <li>・最後のクイズは一人1問に答えることで、間接的に回答者以外の生徒も考える場面となるようにする。</li> </ul> <p>○クイズに答える順番を決める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・状況に応じて友だちを応援したり、励ましたりするように促す。</li> <li>・正解と不正解を音で知らせてクイズの雰囲気を出す。</li> </ul> <p>☆南京玉すだれに関するクイズに答えたか。知 bcd</p>
まとめ 5分	<p>8 振り返りをする</p> <p>(1) しおりにプリントを貼る。</p> <p>(2) 質問に答える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ a : 南京玉すだれについて、どんな気持ちになりましたか?</li> <li>・ b : 南京玉すだれを見るときは、どんなところに注目しますか?</li> <li>・ c : リズムにのって楽しめそうですか?</li> <li>・ d : 今日みんなとの授業がんばりましたか?</li> </ul> <p>(3) 「カモミールの会」について、しおりの中から文字を探したり、ホワイトボードの文字を読み上げたりする。</p> <p>9 おわりのあいさつをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ T 3 がプリントを渡す。</li> </ul> <p>○T 1 はしおりにプリントを貼る手本を示す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ T 2 は d と一緒にプリントを貼る。</li> </ul> <p>○最後の質問として、答えやすいよう、一人ひとりに違う質問をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・絵カード (なるほど/たのしみ/むずかしい等) から選べるようにする。</li> <li>・答えられない場合は、ホワイトボードの短冊から選ぶよう促す。</li> <li>・掛け声ボードを示しながら問いかける。</li> <li>・反応が表出するまで10秒は待つ。</li> </ul> <p>○しおりにも書いてあることを伝えてから、当日南京玉すだれを披露してくれるのは何の会さんですか?と質問して確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・項目を1枚ずつ裏返し「カ」「モ」「ミ」「ー」「ル」の面を表にする。</li> </ul> <p>○確認できたことを認め、しおりにカモミールモチーフのシールを貼りながらここまでの活動を労う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・シールの花はカモミールであることを伝える。</li> </ul> <p>○T 2 : d とおわりのあいさつをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・終わりが近いことがわかるよう、ステップバイステップを見せながら依頼する。</li> </ul>

## 高等部 まとめ

### 1 単一障がい学級（1組） **音楽Ⅰ、Ⅱ「自分の押し曲を紹介しよう」**（授業者2名+担任団）

#### (1) 事前研究会

- ①音楽にかかわる打ち合わせ：生徒の実態把握（興味関心、特性 など）／個別の課題設定／授業のルーティン化／題材を長期ではなく、見通しが持ちやすい時間設定に
- ②授業研究の内容、日程について：「鑑賞」を題材に／9/30(火) 1時間目に本時を設定
- ③音楽の「鑑賞」における実態について：音楽の要素や音楽の特徴を表現する言葉を知らない様子／生徒3名ともそれぞれ特性がある
- ④手立てについて：教師がモデルを示す／音楽の要素をチェックシートに／見通しが持てるような単元計画の提示
- ⑤指導案検討



(2) 本時の目標：リズムや旋律に注目して聴き、その曲の良さに気付いたり、聞き取ったことを根拠にしてその曲の良さを言葉で表現したりすることができる。

(3) 事後研究会：生徒のつぶやきを教師が拾って、他の生徒がその良さに同感し、言葉で表現することにつながっていた／実態把握に応じた支援がなされていた／前半は教師と生徒、後半は生徒同士の意見交換ができていた

### 2 重複障がい学級（2組） **情報「ロボットプログラミング選手権に出場しよう」**（授業者+2組担任団）

#### (1) 事前研究会

- ①学習指導要領の知的障害者教科等編「情報」、中学部「職業」についても目標と内容を確認
- ②「情報」（ロボプロ）における生徒5名の実態について  
感覚的に理解して取り組める生徒から1対1で支援が必要な生徒まで実態に幅がある／個別に目標を設定し、1時間の中で「ここまでできた」をわかりやすくする
- ③指導案検討 ※ICT活用推進報告書の書式に基づく

(2) 本時の目標：ソフトウェアの使い方が分かり、スクラッチのプログラミングを活用してプロロを走らせ、ゴールさせることができる。



#### (3) 事後研究会

- ④自評：今年度から「情報」に取り組み、本時はロボプロへの出場に向けた授業／本時はプロロ（ロボット）の動かし方について／授業参加の回数・学習内容の理解に、ばらつきがある5名／緊張した生徒もいたが、目標に向かって取り組めた／Google formを使い、選択式の振り返りにすることで、書字が難しい生徒、理解に時間がかかる生徒にとっても取り組みやすくなった
- ⑤特総研・織田先生にお聞きしたいこと：改めて（知的）高等部の「情報」の目標・内容を読むと、本時の生徒の実態としてすごく難しいと感じたため「情報」での目標設定について教えてほしい／プログラミング教育を授業の目標にするには、どう授業に組み込めばいいのか
- ⑥織田先生より指導・助言：今回の授業の大きな目標は、「ロボプロ選手権に出場しよう」で生徒たちにもわかりやすく良かった／ロボット同士の対戦のさせ方、床のゆがみの捉え方、摩擦があるところの進め方、など画面上のプログラミングだけでなく、現実世界でのロボットの動き方も考えることで課題解決の力を育てる／情報技術を使って課題解決をする、そのために、どのように情報技術を使うか／プログラミングの仕方を覚えることではなくプログラミングの仕方をどう使うかを学ぶこと／壁向きのパソコンとプロロを実際に動かす床面の間にホワイトボードを入れることで、画面上だけで理解が難しい生徒には、入力したものがどう動くかをホワイトボード上で動かしてみてシミュレーションを。思考を外在化させてプログラムがりが

いしやすくなる／アナログな動きがわかりやすいことも多々ある／ゴールをライン（線）パネル（壁）にすることで到達したかどうかを生徒自身がわかりやすくなる／生徒に迷路を考えさせるのもいい



3 重複障がい学級（2組） **家庭「私たちの衣生活」**（授業者＋2組担任団）

(1) 事前研究会

学習指導要領の読み込み／実生活での経験や知識を踏まえた生徒の実態把握、目標設定／本時の内容と目標設定、手立てについて→汚れの種類？汚れの落とし方？水温？洗い方？／指導案検討

(2) 本時の目標

手順を理解して手洗いをしたり、部分洗いを通して、汚れや水の温度、よごれの放置時間によって、落としやすさが違うことを理解したりすることができる。

(3) 事後研究会

④自評：経験が少ない生徒たちに、いろんな洗い方を体験から取り組ませてみたいと考えた／汚れの種類、落とし方、水温など、どこに的を絞るかすごく迷った／実生活の知識と掛け合わせて授業を作っていきたい。

⑤協議：前時の反省により、洗い終わりを回数で示したことで終わることができていた／様々取り組むことができる内容だからこそ、評価の軸になるものが明確に必要／教師が実演することで、生徒たちが取り組みやすくなるようだ／生徒たちが自分で考えられるような場面を設定してあげたい／T2の役割の難しさを感じた／生徒たちで授業を進められそう

⑥校長の指導・助言：生活段階を踏まえて高等部生としての目標設定の仕方を考えてほしい。

1対1になりがちだが、探究的、協同的な学びをどう取り組むか。評価の仕方として、生徒からアウトプットできるか、客観的に評価ができるかがポイント。

8/25(月)	学研部より進め方の説明 ○2学期は各学部で、根拠のある目標設定の仕方での授業づくりをしていく。 ○高2組「情報」について、外部講師から授業参観・助言をいただく。 ○中堅研、5年研該当教員の授業づくりにも、みんなで取り組んでいく。	
	1組 音楽（授業者＋担任団） 事前研究会①	2組 情報（授業者＋2・3組担任団＋担外） 情報 事前研究会①
9/11(木)	1組 音楽（授業者＋担任団） 音楽 事前研究会②③④	2組 情報（授業者＋2・3組担任団＋担外） 情報 事前研究会②
10/8(水)	5時間目 2組A・情報 「ロボットプログラミング大会に出場しよう」（公開） 事後研究会③④⑤	
10/22(水)	2組 家庭（授業者＋担任団） 事後研究会④⑤⑥	（1組3組＋担外） ○授業の中でのICT活用について
	○自立活動の流れ図の点検（後期の目標の確認）※各学級担任＋担外で	
	○個別の指導計画、目標設定について：授業別（職・家、音楽、体育、自立）で確認	
11/6(木)	Co-MaMeの使い方（講義・演習） ※3～4人のグループに分けて演習を実施。 生徒A、B、C、D：アセスメントシート→支援のイメージ図→整理シートの作成。	
11/20(木)	Co-MaMeの使い方（演習） ※3～4人ぐらいのグループに分けて演習を実施。 生徒E、F：3種類のシートの作成 生徒A：Co-MaMeを活用した実践シートの作成。	
1/8(木)	まとめ	



1 題材名「自分の押し曲を紹介しよう」

2 目標

- ・音楽を形づくっている要素や歌詞の内容等を関連づけながら自分の好きな曲の評価とその根拠を自分なりに考え、音楽の良さや美しさを味わって聴くことができる。（思考・判断・表現）
- ・曲想や音楽の構造との働きについて理解することができる。（知識）
- ・音楽を形づくっている要素と曲想との関わりについて関心を持ち、曲の良さや美しさについて理解を深めようとする。（学びに向かう力、人間性）

高等学校学習指導要領 芸術編 音楽 I

B鑑賞

ア鑑賞に関わる知識を得たり生かしたりしながら、次の（ア）から（ウ）までについて考え、音楽のよさや美しさを自ら味わって聴くこと。

（ア）曲や演奏に対する評価とその根拠

イ次の（ア）から（ウ）までについて理解すること。

（ア）曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わり

3 題材にかかわる生徒の実態

高等部単一障がい学級の音楽科を選択している生徒は2年生2名、3年生1名の男子3名である。音楽が好きで歌唱や器楽の学習に意欲的に取り組む生徒や、歌うことや楽器を演奏することに抵抗感を持っている生徒など、音楽に対する興味関心は様々である。しかし、いずれの生徒にも、自分の好きな音楽のジャンルや歌手、曲があり、日頃から音楽を楽しんでいる様子が見られる。これまで鑑賞の学習では、サン＝サーンス作曲「動物の謝肉祭」を題材に、音の高低や強弱の雰囲気や動物を表現していることに気付いたり、「どうしてこの音楽はこの動物なのか。」と音楽を分析的に聴いたりする学習を積み重ねてきた。それぞれの曲の持つ雰囲気を自分なりに感じ取り、言葉で表現しようとする姿が見られた。

自分の好きな曲に対しては「この曲のこの部分が好き。」「聴くと気分が上がる。」「嫌いな曲はない。」など素直な感情を持つ生徒もいるが、その「好き」という感情の背景にある音楽的な要素（曲想、リズム、旋律、音色、速度、強弱、テクスチャ、構成など）に気付くことはどの生徒もまだ難しい。感覚的に「好き」だと感じている音楽の音楽的な要素に気付くことで、より深く音楽を理解したり、友達や身近な教師の好きな音楽に関心を持ったりすることができるようになってほしいと考え、本題材を設定した。

#### 4 題材について

本題材は、高等学校学習指導要領（平成30年）の芸術（音楽編）の「B鑑賞」ア、イを組み合わせたものであり、「曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わりを理解するとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠を自分なりに考え、音楽の良さや美しさを自ら味わって聴くこと」について扱うものとする。今回の題材は、岡本真夜作曲『Tomorrow』、林部智史作曲『だきしめたい』、生徒ひとりひとりが選んだ「自分の好きな曲」である。

『Tomorrow』は第68回選抜高校野球大会の入場行進曲であり、明るく弾むようなリズムが歌詞の持つ前向きなメッセージを表現する応援ソングである。歌詞の内容や曲想を結びつけて曲の持つ良さを感じ取ることができると考え設定した。

「だきしめたい」はハ短調のしっとりした曲調でゆったりと遅めのテンポで大切な人への愛惜の気持ちが表現されている曲である。『Tomorrow』とは対照的に、短調によって生まれる味わいやゆったりとしたテンポなどから調の働きや曲全体に漂う雰囲気意識に向けられると考え設定した。

さらに、「自分の好きな曲」を題材にすることで、生徒が学習を自分事として捉え学習に取り組むことを通して、音楽を形作っている要素に気付き、その曲の良さをより感じることを考えた。特に、曲のリズム、旋律、調性、構成等に注目して聴き、知覚した音楽を形づくっている要素や歌詞の内容等に関連付けながら自分の好きな曲についてその理由を文章でまとめ、友達に紹介する。また、繰り返し曲を聴いたり、楽譜を見たりして気付いた曲想や表現上の効果、音楽の構造との関わりと関連付けながら、好きな曲を紹介するという形で根拠を持ってその曲を評価することをねらいとする。

#### 5 指導について

導入では、自分がよく聴く好きな曲を1曲選び、その曲との出会いや、好きな理由、その曲を聴くとどんな気持ちになるか等をワークシートにまとめ、発表する。その後、音楽の要素に注目しながら自分の選んだ曲を聴いたり、必要に応じて楽譜を見たりして、分析する学習を行うために、「音楽を味わう」とはどんなことが分かるように、音楽を形づくっている要素にはどんなものがあるかを提示する。また、具体的にイメージが持てるように、教師がピアノで、生徒の身近な曲のフレーズをゆっくり弾いたり、速く弾いたりして速さに気付けるようにするなど、実際に聴くことで音楽を形づくっている要素にはどんなものがあるのかを理解できるようにする。

曲の分析では、曲を聴く際、どんなことに注目して聴くと良いかがわかるように、既習曲の『Tomorrow』（岡本真夜作曲）を、教師の好きな曲として紹介する。「この曲を聴くと元気が出る」と好きな理由を伝え、「元気が出る」のは音楽を形づくっているどの要素の働きによるものか聴き取っていく。範唱CDを通して聴き、聴きながら生徒と一緒に曲の速さ、強弱、音色（使われている楽器）、構成などの要素を板書する。全体を通して聴き、大まかな曲の雰囲気を掴んだ後、リズムや旋律、調などを一つ一つ、聴き取っていくようにする。リズムについては、冒頭のシンコペーションのリズムが特徴的であることに気付けるように、手拍子をしてそのリズムの軽やかさが曲の魅力であるということを感じられるようにする。調性については、聴き取った経験があまりないため、教師が長調と短調で弾いた同じ曲を聴き比べることで、明るい雰囲気を持つ長調と暗い雰囲気を持つ短調の二種類があることに気付くことができるようにする。さらに、『Tomorrow』とは対照的な『抱きしめたい』をT2の好きな曲として提示し、比較しながら『Tomorrow』とは違う短調の良さや旋律の美しさに気付くことができるようにする。T2がこの曲を聴くと「切ない」気持ちになると好きな理由を伝え、どうしてそう聴こえるかの要因を探るようにする。

教師が曲の分析の仕方を提示することで、自分の好きな曲をどのような視点で聴くと良いか、見通しがもてるようにする。

曲を繰り返し聴き、聴き取った音楽を形づくっている要素や音楽の構造、雰囲気や曲想等を根拠としてワークシートに整理することで、その曲の気に入っているところ、他者に紹介したいところなど、自分にとってその曲にどのような価値があるのかという評価をすることで鑑賞活動を充実させ、音楽を自分なりに評価しながら良さや美しさを味わって聴くことができるようにしたい。

## 6 指導計画（本時3／4時間）

	実施日	学習内容	評価の観点		
			知	思	主
1	9月24日(水)	<ul style="list-style-type: none"> <li>好きな曲を選び、その曲との出会いや好きな理由を書く</li> <li>好きな曲をお互いに聴き合い、感想等を共有する。</li> </ul>			○
2	9月29日(月)	<ul style="list-style-type: none"> <li>教師の好きな曲『Tomorrow』を紹介し、全体を聴くことを通してその曲の速さや調、曲の構成などを例示する。</li> <li>教師のモデルに沿って自分の好きな曲の速さ、調、曲の構成に注目してワークシートを記入する。</li> </ul>		○	
3	9月30日(火) 本時	<ul style="list-style-type: none"> <li>教師の好きな曲『Tomorrow』『だきしめたい』を紹介し、曲のリズムに注目して聴く。</li> <li>リズムをより感じられるように手拍子をしたり、必要に応じて楽譜を見たりする。</li> <li>自分の好きな曲のリズムに注目してどんな特徴があるかを考えワークシートにまとめる。</li> <li>旋律（調性）に注目して聴くことができるように、『Tomorrow』を長調と短調で聴き比べ、調がもたらす雰囲気の違いを感じられるようにする。</li> <li>自分の好きな曲の旋律に注目してどんな特徴があるかを考え、ワークシートにまとめる。</li> </ul>		○	
4	10月1日(水)	<ul style="list-style-type: none"> <li>教師の好きな曲『Tomorrow』『だきしめたい』の曲の構成に注目して聴く。</li> <li>これまで聴いた教師の好きな曲のワークシートをもとに自分の好きな曲を分析する。</li> <li>自分の好きな曲の特徴を紹介する。</li> </ul>	○		○

7 本時について

(1) 全体の目標

- ・リズムや旋律に注目して聴き、その曲の良さに気付いたり、聴き取ったことを根拠にしてその曲の良さを言葉で表現したりすることができる。

(2) 対象生徒の個別の実態と目標

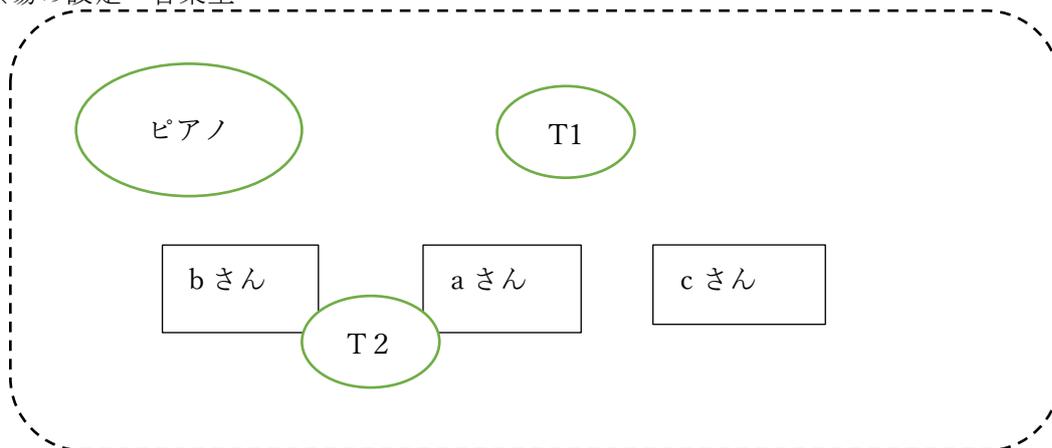
生徒	単元にかかわる実態	個別の目標	評価の観点		
			知	思	主
a	<ul style="list-style-type: none"> <li>・曲を聴いて感じた雰囲気を言葉で表現することができる。(感性)</li> <li>・その雰囲気が音楽を形づくっている要素やその働き(速度や強弱)によるものだと気付くことはまだ難しい。</li> <li>・教師が「どんな速さだった」等、聴く視点を与えることでその曲の速さやに気付くことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・旋律やリズムの特徴を聴き取り、その曲の良さを言葉で表現することができる。</li> </ul>		○	
b	<ul style="list-style-type: none"> <li>・楽譜を見て強弱記号などを手がかりに、曲の一番盛り上がる部分を読み取ったり、考えたりすることができる。</li> <li>・選択肢を提示することで曲を聴いて感じたことを言葉で表現することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・旋律やリズムの特徴を聴き取り聴き取ったことを根拠にしてその曲の良さを言葉で表現することができる。</li> </ul>		○	

(2) 学習活動の展開

時間	学習活動	主な支援(○) 留意点(・) 評価の観点(☆)
導入 5分	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. あいさつ(修礼の合図)</li> <li>2. 『Tomorrow』を聴く。</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒が輪番でピアノを担当する。</li> <li>・T1の好きな曲として『Tomorrow』を紹介する。</li> </ul>
展開 35分	<ol style="list-style-type: none"> <li>3. 『Tomorrow』を聴くと「元気になる」のはどんな働きによるものかを考える。</li> <li>4. 『Tomorrow』のリズムについて考える。</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○必要に応じて、客観的に音を表す言葉の選択肢を示したり、選択肢を与えたりする。</li> <li>○シンコペーションのリズムに注目できるように、楽譜を見ながら手拍子をして、そのリズムが何回登場するかを確認する。</li> <li>○シンコペーションの部分を8分音符に変えて手拍子をし、シ</li> </ul>

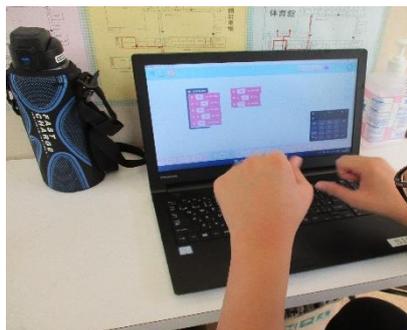
	<p>5. 『だきしめたい』を聴く。</p> <p>6. 『Tomorrow』の調性について考える。</p> <p>7. 『だきしめたい』の調性について考える。</p> <p>8. T2が「切ない」と感じる要因はどこにあるのかを考える</p>	<p>ンコーションのリズムの面白さに気付けるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・T2の好きな曲として『だきしめたい』を紹介する。</li> </ul> <p>○感じたことや印象に残ったことを書く</p> <p>○『だきしめたい』のリズムに注目して聴く。</p> <p>☆曲の音楽的特徴を捉え、言葉で表現できているか。</p> <p>○『Tomorrow』の旋律を長調と短調で弾き、聴き比べることで調が曲の雰囲気大きく影響することに気付くことができるようにする。</p> <p>○旋律や伴奏等、特徴的な部分に絞って聴くことができるように言葉掛けを行う。</p> <p>☆曲の音楽的特徴を捉え、言葉で表現できているか。</p>
<p>ま と め 10 分</p>	<p>9. 教師のモデルに沿って『だきしめたい』の曲の速さ、調などに注目してワークシートを記入する。</p> <p>10. あいさつ（修礼の合図）</p>	<p>○聴き取ったリズムや調性等の特徴をワークシートにまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒が輪番でピアノを担当する。</li> </ul>

※場の設定 音楽室



# 山形県立山形養護学校高等部 1, 2, 3 年 情報

## ロボットプログラミング競技大会に出場しよう



日 時：令和 7 年 10 月 8 日（水） 13：10～14：00

場 所：第 2 自立室

対 象：1, 2, 3 年 生徒 5 名

授業者：T1 工藤孝太 教諭 T2 渡邊千佳子 教諭

### 1 主に活用した機器・コンテンツ

・一人一台タブレット（iMac） ・提示装置（TV モニター） ・パソコン  
 ・Google ドライブ ・Google フォーム ・Word ・ぶろろメーカー

### 2 授業

#### (1) 本時の目標

ソフトウェアの使い方が分かり、スクラッチのプログラミングを活用して「プロロ」を走らせ、ゴールさせることができる。【知識及び技能 高等部第 1 段階 A 情報社会の問題解決 (ア)】

#### (2) 指導過程

時間※ <sup>1</sup>	●主な学習活動	○ICT 活用ポイント、留意点	使用機器 コンテンツ	情報活用能力※ <sup>2</sup>
導入 5分 一斉	●学習活動の流れを確認する ●目標を確認する	○Keynote または Canva で作成したスライドを使用し、本時の見通しがもてるようにする。	・TV モニター ・タブレット	
展開 40分 個別	●プロロを使ってプログラミングをし、コースを走らせる	○各々のパソコンでぶろろメーカーを開き、プログラミング構築ができるようにする。  ・挙手をした生徒から順番にプロロのプログラミングデータの出力を行うようにする。  ・プロロは 2 台しかいないため、順番で使うようにする。	・パソコン ・プロロ ・ぶろろメーカー	A1①b ステップ 1 電子ファイルの呼び出しや保存  B1④ステップ 2 自らの情報の活用を振り返り、手順の組み合わせをどのように改善していけば良いか考える  C1②a ステップ 2 目的に応じて情報の活用の見通しを立てようとする
まとめ 5分 一斉 個別	●振り返り	○Google フォームを使用して、各自振り返りシートに記入する。	・Google フォーム	

高等部 重複障がい学級 家庭科 学習指導案

日 時：令和7年10月22日（水）2校時

場 所：家庭科室

授業者：T1 渡邊千恵 T2 深瀬真智

T3 渡邊一誠

1 単元名「私たちの衣生活」

2 目標

- ・衣服の手入れについて理解し、実践することができる。（知識及び技能）
- ・衣服の手入れについて考えたり、工夫したりすることができる。（思考力、判断力、表現力等）
- ・衣服の手入れに関心を持ち、課題に取り組もうとする。（学びに向かう力、人間性等）

特別支援学校学習指導要領 各教科編 (d)

職業・家庭（家庭分野）中学部 2段階 B 衣食住の生活 エ 衣服の着用と手入れ

(ア) 日常着の使い分けや手入れの仕方などについて理解し、実践すること。

(イ) 日常着の快適な着方や手入れの仕方を考え、工夫すること。

特別支援学校学習指導要領 知的障害者教科等編 (a, b, c, e)

家庭 高等部 2段階 B 衣食住の生活 ウ 衣服の手入れ

(ア) 衣服の材料や状態に応じた日常着の手入れについて理解し、適切にできること。

(イ) 衣服の材料や状態に応じた日常着の手入れについて考え、工夫すること。

3 個別の単元目標

生徒	個別の単元目標
a	・衣服の種類や状態に応じた手入れについて理解し、適切に行うことができる。（知識及び技能）
b	・衣服の種類や状態に応じた手入れについて考え、工夫することができる。（思考力、判断力、表現力等）
c	
e	・衣服の手入れに関心を持ち、課題に取り組もうとする。（学びに向かう力、人間性等）
d	・日常着の手入れについて理解し、実践する事ができる。（知識及び技能） ・日常着の手入れについて考え、工夫することができる。（思考力、判断力、表現力等） ・日常着の手入れに関心を持ち、課題に取り組もうとする。（学びに向かう力、人間性等）

4 単元にかかわる生徒の実態

本単元は、高等部重複障がい学級で、教育課程 A 生徒は1年生女子1名、2年生男子3名、3年生男子1名の合計5名で学習する。反抗挑発症や反応性愛着障害、自閉スペクトラム症、適応障害、高次脳

機能障害など、障がいは様々であるが、皆知的障がいがある。

これまでの家庭科では、布を用いた製作や清掃などを行ってきたが、意欲的な生徒もいれば、興味関心が薄い生徒もいる。衣類の手入れについてアンケートを実施したところ、洗濯をしたことがある、洗濯機を使用したことがある生徒は、どちらも1名のみだった。しかし、洗濯したことがない生徒の中にも、「自宅の洗濯機は縦型だ」「使用している洗剤は〇〇（商品名）だ」など、知っていることを発言する生徒はいる。このことから、衣類の手入れに関する経験は少ないが、自分の生活に直結していて、見たことがある事柄に関しては、知識や関心はあるようである。

## 5 単元について

本単元は、特別支援学校高等部学習指導要領（平成31年）の家庭にある「衣食住の生活」より「ウ衣類の手入れ」である。

学習空白がある生徒や、経験の少ない生徒がいることから、特別支援学校中学部学習指導要領の家庭にある「衣類の着用と手入れ」の内容を入れ、確認しながら学習を行う。

よって、衣服の役割や適切な衣類の選択、洗濯機や洗剤の使用法、洗濯表示、手洗いの方法等について学習する。

本単元を通して、衣服の手入れ方法についての正しい知識を理解させ、実生活でも活用できる力を養いたい。

## 6 指導について

導入では、興味関心を持つことができるように、自分の家庭で使用している洗濯洗剤の種類や、洗濯機等、生活に直結したものから話を展開していく。また、深い学びができるように、洗濯機を使用して洗濯した際、洗濯物が縮んだ、汚れが落ちなかったという体験をもとに、どうすれば縮まないのか、汚れが落ちるにはどうしたらよいのか等を、考えることができるようにする。手洗いや洗濯機の使用など、体験的な学習を取り入れながら、実生活での活用がイメージできるようにする。

生徒が思考しやすいように、写真やイラスト、具体物等を活用する。

また、自信を持って取り組むことができるように、生徒が発言したことを肯定的に受け止めながら、学習を進めていく。

## 7 指導計画（本時5／9時間）

	実施日	学習内容	評価の観点		
			知	思	主
1	10月15日（水） ②	衣服の役割、季節や TPO に合わせた服装 色々な衣服を知ろう	○	○	
2	10月15日（水） ③	洗濯について知ろう① 洗濯の準備を知ろう 洗濯機で洗濯してみよう	○		○
3	10月15日（水） ④	洗濯 → 脱水 → 干す 洗剤の種類を知ろう 粉洗剤、液体洗剤	○		

4	10月20日(月) ④	洗濯について知ろう② 「どうして縮んでしまったのだろう」 → 洗濯表示を知ろう 洗濯できるものとできないもの	○		
5	10月22日(水) ② ★本時	洗濯について知ろう③ 「汚れを落とすにはどうしたらよいだろう」 → 部分手洗いをしよう 落ちやすい汚れと落ちにくい汚れ 水の温度、汚れの放置	○		
6	10月22日(水) ③	洗濯について知ろう④ 「形が崩れないようにするには」 → 洗濯ネットの使用 「タオルなどを気持ちよく使うには」 → 柔軟剤 漂白剤について	○		
7	10月29日(水) ②	汚れや洗濯表示をみて、洗濯しよう (今までのまとめ)	○		○
8	10月29日(水) ③		○		○
9	10月29日(水) ④	取り込み方、畳み方を知ろう コインランドリーについて	○	○	

## 7 本時について

### (1) 全体の目標

- ・手順を理解して手洗いや部分洗いをしたり、汚れや水の温度、汚れの放置時間によって、落としやすさが違うことを理解したりすることができる。

### (2) 対象児童生徒の個別の実態と目標

	単元にかかわる実態	個別の目標	評価の観点		
			知	思	主
a	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今まで、洗濯をした経験はない。</li> <li>・片麻痺があるため、実践的な学習では支援が必要である。</li> <li>・教師が質問したり、選択肢を与えたりすることで、考えを伝えることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・汚れや水の温度、汚れの放置時間によって、落としやすさが違うことを理解することができる。</li> </ul>	○		
b	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今まで洗濯をした経験はない。</li> <li>・体験的な学習には、興味を持って取り組む事ができる。</li> <li>・衣類の素材や洗濯機の種類など、気づいたことについて発言することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・汚れや水の温度、汚れの放置時間によって、落としやすさが違うことを理解することができる。</li> </ul>	○		

c	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今まで洗濯をした経験はない。</li> <li>・疑問に思ったことや、気づいたことを自分から発言することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・汚れや水の温度、汚れの放置時間によって、落としやすさが違うことを理解することができる。</li> </ul>	○		
d	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今まで洗濯をした経験はない。</li> <li>・手順を理解して取り組むことはできるが、原因や性質などに注目することは難しい。</li> <li>・教師がヒントを伝えたり、質問したりすることで、自分の考えを伝えることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・手順を理解して手洗いをしたり、汚れに着目して部分洗いをしたりすることができる。</li> </ul>	○		
e	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自宅で、自分のお気に入りの物を洗濯することがある。</li> <li>・洗濯機の使用法や知識はある。</li> <li>・自分の経験や知っていることを、積極的に伝えることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・汚れや水の温度、汚れの放置時間によって、落としやすさが違うことを理解することができる。</li> </ul>	○		

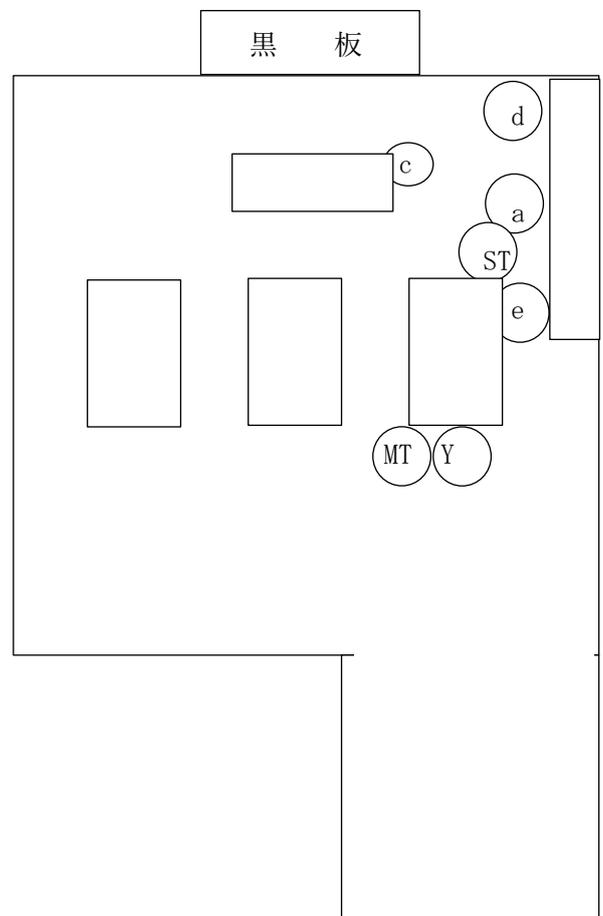
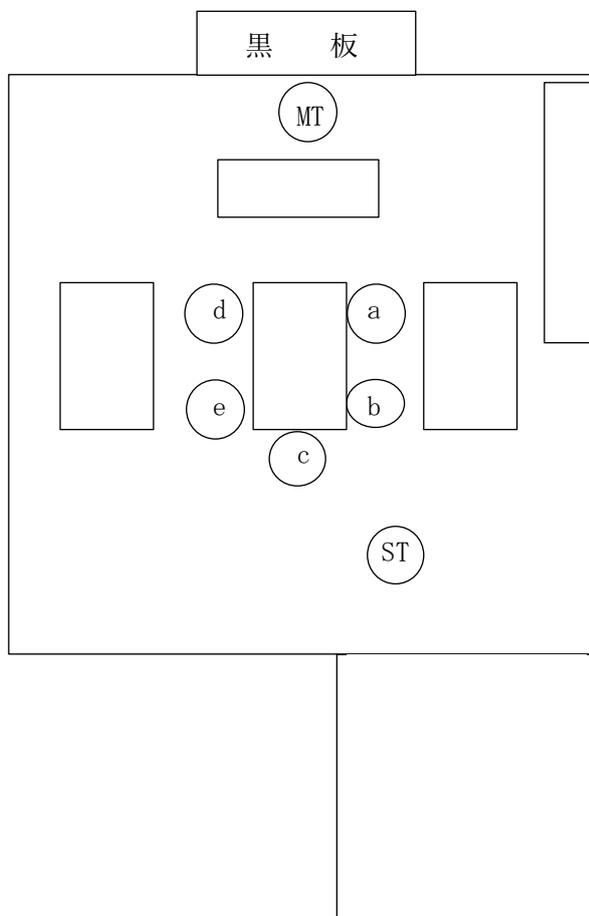
### (3) 学習活動の展開

時間	学習活動	主な支援 (○) 留意点 (・) 評価の観点 (☆)
導入 5分	1 はじめのあいさつ  2 前回の学習の復習と、今日の学習について知る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・その日の当番が挨拶をする。</li> </ul> ○前回の学習で洗濯して干した洗濯物や、洗濯表示のカードを見せて、前回の学習を振り返る。 ○以前に自分達で洗濯機を使用して洗った洗濯物で、汚れが落ちなかった洗濯物を見せる。
展開 40分	3 手洗い、部分洗いをする。 (1) どうすれば汚れが落ちたのかを予想する。  (2) 手洗い、部分洗いについて知る。  (3) 手洗い、部分洗いを実践する。  (4) 友達が手洗いをしたり、部分洗いをしたりした物と比べる。  (5) お湯や汚れをつけたものを、部分洗いする。	○今までの経験を聞いたり、具体物を見せながら問いかけたりする。  ○手順表を見せながら、教師が見本や手順を示す。  ○様々な汚れ（どろ、醤油、油性ペン、油汚れ等）を用意して、担当を決め、一人ひとつを手洗いをする。  ○教師が声をかけながら、友達のものとは比べられるようにする。  ○お湯で洗うグループと汚れをつけたものを洗うグループに分けて、部分洗いをを行う。  ○落ちなかったものと比較しながら、汚れが落ちるのを実感できるようにする。

		<p>☆手順を理解して手洗いや部分洗いをすることができたか。</p> <p>☆汚れや水の温度、汚れの放置時間によって、落としやすさが違うことを理解することができたか。</p>
ま と め 5 分	<p>4 今日学習したことを振り返る。</p> <p>5 次回の学習について知る。</p> <p>6 あいさつ</p>	<p>○教師が問いかけながら、様々な意見が出るようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実物を見せながら、次は型崩れについて学習することを伝える。</li> <li>・その日の当番が挨拶をする。</li> </ul>

(5) 場の設定

<手洗い時>



# Ⅲ 研究のまとめ

## Ⅰ 今年度の経過

今年度は、3年計画の1年次、『試行・土台作り』として、様々な研修に取り組んできた。そして学習指導要領に基づく目標設定の仕方について、各学部で授業実践を中心に研究を進めてきた。詳しい取り組み内容は以下の通りである。

- (1) 研究の日…各学部 (8/25、9/11、9/25、10/22、1/8)、  
授業実践に向けての事前研究会、事後研究会研修 (月1・2日程度)
- (2) 授業公開
  - 10/8 (水) 授業公開 + ICT研修会  
高等部 重複障がい学級 情報  
「ロボットプログラミング競技大会に出場しよう」  
ICT活用事業における研修Ⅱ「学習場面での活用について」  
○講師 国立特別支援教育総合研究所 情報・支援部  
主任研究員 織田晃嘉 氏
- (3) 校内授業研究会
  - ①10/3 (金) 中学部授業研究会 助言者：山形県教育センター 鐘水佐知子 氏
  - ②11/28 (金) 小学部授業研究会 助言者：山形県教育センター 本間みゆき 氏
- (4) 校内研修会
  - ①5/29 (木) ICT活用事業における研修Ⅰ「教科指導等におけるICT活用について」  
○講師 国立特別支援教育総合研究所 情報・支援部  
主任研究員 織田晃嘉 氏
  - ②6/12 (木) 自立活動にかかわる研修…「流れ図」について
  - ③7/29 (火) 教育課程に関する研修  
○講師 国立特別支援教育総合研究所  
研究企画部 (兼) 西日本ブランチ広島オフィス  
総括研究員 大崎博文 氏
  - ④10/8 (水) ICT活用事業における研修Ⅱ  
「学習場面での活用について」  
⑤10/22 (水) 中学部・高等部  
Co-MaMe：こまめ  
※Co-MaMe：こころの病気 (精神疾患及び心身症) のある  
児童生徒への支援・配慮
  - アセスメントシート、支援のイメージ図、整理シートを 使ったの研修
  - ⑥12/16 (火) ICT活用事業における研修Ⅲ「活用の成果についての指導・助言」  
○講師 国立特別支援教育総合研究所 情報・支援部  
主任研究員 織田 晃嘉 氏
- (5) 研究収録の発行…ホームページへの掲載

## 2 今年度の成果と課題

---

【各学部 授業研究の取り組みから】

<小学部>

- 学習指導要領を共通ツールとして、目標設定に取り組むことができた。
- 指導案に児童の実態・目標設定の根拠を示すために、学習指導要領「目標・内容の一覧」を活用することで、わかりやすく明記することができた。
- ▲設定した目標「学習のゴール」を児童と教員とで共有する方法の検討が必要。

<中学部>

- 学びの履歴、自立活動の流れ図で生徒の実態を把握し、学習指導要領を見ながら、具体的な生徒の姿をイメージして支援・指導まで考えることができた。
- 生活単元学習で取り扱う教科等の内容、目標について確認することができた。
- ▲教育課程が違う生徒がいる学習集団での授業づくりの仕方が難しい。
- ▲生活単元学習の学習計画での設定が妥当なのか。各教科等で取り扱うならば、どう学習計画していけば良いのか。

<高等部>

- 教科担任が学級担任と一緒に生徒の実態についてじっくり話し合い、学習指導要領をもとに目標設定をすることができた。(単一)
- 学習指導要領の各教科の目標と内容をよく読んで、生徒の実態を踏まえて目標設定をすることができた。
- ▲目標設定における「一部をかえていい」が、理解できていなかったことがわかった。
- ▲高等部の目標・内容を、目の前の生徒に授業でどう扱うかが難しい。

<全体を通して>

- Co-MaMe、ICTを使った研修、自立活動についての研修が良かった。
- 学習指導要領を学部職員全員で見ながら、教科等の目標や内容のまとまりを再確認したり、解説を読み直したりしながら、根拠のある目標設定に取り組むことができ良かった。
- ▲年度当初の計画に沿って、見通しをもって取り組むことができると良い。
- ▲各学部の取り組みであったため、他学部の授業を参観したり、事後研に参加したり、情報を共有したりする場面があると良い。

## 3 来年度の研究に向けて

---

「今年度の成果と課題」を受けて、以下の事が来年度の課題であると考えている。

- ・各教科と自立活動との関連
- ・学習活動の仕方
- ・学習内容の精選の仕方
- ・支援・指導の仕方
- ・目標と評価の一体化

また、学校研究の進め方として、見通しのある研究の進め方、他学部との情報共有なども課題として挙げられている。これらのことを踏まえ来年度の研究は、授業実践を通して、教職員間での児童生徒の実態把握、支援・指導などの共通理解を深めながら、児童生徒にとってより良い授業づくりの実現を図りたい。

## 4 研究同人

---

川田 栄治      富樫 智美      平山 琢也      峯田 菜津美

### <小学部>

田川 玲子      田中 純子      逸見 静佳      草間 智弘      佐竹 真理子  
松田 政子      門馬 達也      柴田 静香      渋谷 絵里      土屋 侑佳

### <中学部>

斉藤 麻美      今田 かおり      佐藤 美幸      金子 和子      国井 千珠子  
大泉 麻実      佐藤 陽介      新関 日春望      小松 敏一      日比野 久枝  
丹羽 祐美子      高橋 めぐみ      相沢 駿斗

### <高等部>

渡邊 千佳子      鈴木 美佐      嶋村 志朗      設楽 公美      治部 あかね  
渡邊 千恵      工藤 孝太      本藤 順子      佐藤 美咲      深瀬 真智  
井上 典子      五十嵐 彩      奥泉 隆広      福澤 美幸      渡邊 一誠  
工藤 智子      土屋 淳一      横山 育子

令和7年度 研究収録 あゆみ 第50号

発行      山形県立山形養護学校  
〒990-0876      山形県山形市行才116番地

編集      山形県立山形養護学校 学習研究部  
佐藤美咲 新関日春望 深瀬真智 大泉麻実 土屋侑佳

発行日      令和8年 3月